

■ 卷末資料

巻末資料 1 バリアフリー建築設計標準チェックリスト（ホテル・旅館編）

■ 本チェックリストの利用にあたって

本チェックリストは、ホテル又は旅館の計画・設計にあたり、設計者及び建築主・施設管理者が適切なバリアフリー化の実現と、施設管理者による情報提供ができるよう留意しながら、計画・設計に取り組むための標準的なチェックリストである。

具体的には本チェックリストを活用して、設計者及び建築主・施設管理者は、ホテル又は旅館の計画・設計内容のバリアフリー化の水準や達成状況についてセルフチェックすること、解決すべき課題点についての共通認識を持つこと、利用者に対する適切な事前の情報提供や人的対応にもつながること等が期待される。また、本建築設計標準（追補版）に照らし合わせて、バリアフリー化に必要な確認すべき事項を設計の進捗に合わせて具体的に整理することで、設計品質の向上や効率化を図ることが期待される。

なお、既存のホテル又は旅館等においては、今後、必要なバリアフリー対応を検討するための現状把握や改修等に向けた課題抽出等に活用することも考えられる。

■ 本チェックリストへの記入に際しての留意事項

本チェックリストは、以下のURLの「ホテル又は旅館における高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（追補版）」の該当箇所から、EXCELデータをダウンロードしてご活用ください。

http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/jutakukentiku_house_fr_000049.html

本チェックリストの様式（EXCEL）は、「施設概要・バリアフリー計画の考え方」「車椅子利用者用客室」「一般客室」「案内表示、情報伝達設備等」「単位空間等の設計（共用部分）」「災害時の避難・誘導」の各チェックシートで構成している。また、個々のプロジェクトの業務の実情に合わせた活用ができるように、自由「記入欄」を設けている。

建築設計標準に基づき、ホテル又は旅館のバリアフリー化への設計を進める上で、設計標準の「留意点」「設計事例」を参照しながら、本チェックリストを活用して具体的な設計対応を十分にご検討をいただければと考えている。

なお、建物供用開始後に施設管理者等におかれましては、施設の確認とともに、本チェックリストの設計情報の中から、情報提供すべき項目（2.3ソフト面の工夫「バリアフリー対応の情報提供項目の例」参照）を抽出し、利用者に対して必要な情報提供を適切に行うことに活用されることも期待される。

施設概要・バリアフリー計画の考え方

項目	内容		
施設概要	<input type="checkbox"/> 施設名称又はプロジェクト名称		
	<input type="checkbox"/> 所在地		
	<input type="checkbox"/> 営業形態 (建物性格)	<input type="checkbox"/> ホテル (<input type="checkbox"/> ビジネス <input type="checkbox"/> シティ <input type="checkbox"/> リゾート) <input type="checkbox"/> 旅館営業 <input type="checkbox"/> 簡易宿所営業及び下宿営業 <input type="checkbox"/> その他 (_____)	
	<input type="checkbox"/> 工事種別	<input type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転 <input type="checkbox"/> 用途変更 <input type="checkbox"/> 大規模の修繕 <input type="checkbox"/> 大規模の模様替 <input type="checkbox"/> その他 (_____)	
	<input type="checkbox"/> 建物規模	敷地面積	_____㎡
		建築面積	_____㎡
		延べ面積	_____㎡
		階 数	地上 _____階・地下 _____階・塔屋 _____階
		構 造	_____造
		客室総数	_____室
		・車椅子利用者用客室	うち、_____室 (_____% ≥ 1%)
	<input type="checkbox"/> 工期	オープン予定	_____年 _____月 _____日
着工予定		_____年 _____月 _____日	
竣工予定		_____年 _____月 _____日 (工期 _____ヵ月)	
バリアフリー法	<input type="checkbox"/> 特定建築物 (令第4条) / 特別特定建築物 (令第5条)	<input type="checkbox"/> 特定建築物 <input type="checkbox"/> 特別特定建築物 <input type="checkbox"/> 該当しない	
	<input type="checkbox"/> 計画地におけるバリアフリー条例の制定 (法第14条第3項)	<input type="checkbox"/> 有 (義務付け対象規模: _____㎡以上) <input type="checkbox"/> 無	
	<input type="checkbox"/> バリアフリー法第17条に基づく認定	<input type="checkbox"/> 申請予定 <input type="checkbox"/> 申請しない	
	<input type="checkbox"/> 該当する利用居室 (バリアフリー法第18条) (※特別特定建築物の場合)	※利用居室に該当される室名を列記する。	
バリアフリー計画の考え方	<p>【参考例】1.2 (1) 多様なニーズへの対応に向けて建築計画に際し考慮すべき整備目標として、当該施設のバリアフリー計画を検討し、下記の項目に従って具体的な計画概要 (考え方) を記述する。</p> <input type="checkbox"/> 施設全体 <input type="checkbox"/> 車椅子利用者用客室 <input type="checkbox"/> 一般客室 <input type="checkbox"/> 共用部分 <input type="checkbox"/> ソフト面での対応 <input type="checkbox"/> 改善・改修		

本建築設計標準によるハード面のバリアフリー化の整備内容や、設計者等と意見交換等を踏まえ、以下の内容について施設管理者が利用者に対して建物供用開始前に検討しておくことが、望まれる。

	項 目	追補版の参照先
①	案内・誘導等に必要な人的配置、情報提供等の方法への配慮 (ソフト面の工夫)	1.2(2)⑤
②	客室における備品の対応、貸し出しの計画 (ソフト面の工夫)	1.2(2)⑥
③	バリアフリー対応の情報提供、予約時のコミュニケーション、利用者のニーズの蓄積と活用	1.2(2)⑧
④	火災や地震等、非常時の対応の計画	1.2(2)⑦、1.2(6) ①②③

2.1 (1) 車椅子使用者用客室		↓●: 適合義務基準 (政令改正2019.9~) ◎: 円滑化誘導基準 (省令)			
建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
①設置数、配置 48					
1	□客室総数が50以上の場合は、客室総数の1/100を乗じて得た数(1未満の端数が生じたときは、これを切り上げて得た数)以上の車椅子使用者用客室を設ける。	●	対象・対象外 ____室 ____㎡		□
2	□客室総数が200以下の場合は、客室総数に1/50を乗じて得た数以上、客室総数が200を超える場合は、客室総数に1/100を乗じて得た数に2を加えた数以上の車椅子使用者用客室を設けることが望ましい。また、バリアフリー法第17条に基づく建築物特定施設とする場合は、これに適合させた客室数以上の車椅子使用者用客室を設ける。	◎	対象・対象外 ____室 ____㎡		□
3	□客室総数が50未満の場合は、1以上の車椅子使用者用客室を設けることが望ましい。		対象・対象外 ____室 ____㎡		□
②客室の出入口の有効幅員、空間の確保等 48					
4	□客室出入口の有効幅員は、80cm以上とする。	●	適・否 有効幅 ____cm		□
5	□車椅子使用者の戸の開閉のため、客室出入口の戸が内開き戸や引き戸の場合には、戸の取っ手側に袖壁の幅45cm程度以上の接近スペースを設けることが望ましい。		適・否 袖壁 ____cm		□
6	□客室内における便所・浴室等の出入口付近の通路は、車椅子使用者が円滑に利用できるよう、十分な有効幅員を確保する。なお、便所・浴室等の出入口(有効幅員80cm以上)に至る車椅子使用者の経路が直角となる場合には、便所・浴室等の出入口付近における通路の有効幅員は、100cm以上とする。		適・否 通路幅 ____cm		□
7	□客室内には、車椅子使用者が360°回転できるよう、直径150cm以上の円が内接できるスペース(又は車椅子使用者が180°転回(方向転換)できるよう、140cm以上×140cm以上のスペース)を、1以上設ける。(家具等の下部に車椅子のフットレストが通過できるスペースが確保されていれば、その部分も有効スペースとする。)ベッドの移動等、客室のレイアウトの変更による対応でもよい。		適・否 □直径150cmΦ □140cm角		□
8	□車椅子使用者がベッドに移乗できるよう、ベッド側面のスペースの有効幅員は、80cm以上とする。(ベッド、テーブルや椅子等の移動によって確保されるスペースも、有効幅員とするが、この場合は施設管理者側の移動作業が増大することに留意する必要がある。)		適・否 ベッド間 ____cm		□
9	□客室の床には、原則として段差を設けない。客室の一部に和室や畳の小上がりスペース等を設ける場合、車椅子使用者が容易に移乗できるよう、畳上面等(段差)を40~45cm程度(車椅子の座面の高さと同程度)とすることが望ましい。		床段差 有・無		□
10	□壁面からの突出物を極力避けるとともに、やむを得ず突出した部分や衝突する可能性のある壁・柱・家具の角等がある場合には面取りをする、保護材を設ける等、危険防止に配慮することが望ましい。		適・否		□
11	□その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.8.1 利用居室の出入口の設計標準を参照。		—		□
③客室の出入口の戸の形式 51					
12	□戸は、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	適・否		□
13	□戸の開閉動作の難易度から見ると、引き戸の方が開き戸より開閉しやすい。		引き戸・開き戸		□
14	□取っ手の中心高さは、床から90cm程度とする。		適・否 床から ____cm		□
15	□室名表示、避難情報及び避難経路の表示等は、床から140cm程度の高さ(車椅子使用者の見やすさに配慮した高さ)に設ける。		適・否 床から ____cm		□
16	□アイスコープは、一般客室と同じ高さの他に、床から100~120cm程度(車椅子使用者の自線の高さ)程度の高さに設けることが望ましい。又は、戸の付近にカメラ付きインターホンが設けられることが望ましい。		適・否 床から ____cm		□
17	□非接触型カード錠のカードリーダーは、床から100~120cm程度の高さに設けることが望ましい。		適・否 床から ____cm		□
18	□錠(電気錠を含む)は、施錠の操作がしやすいものとし、操作がしやすい高さに設けるとともに、緊急の場合には廊下側からも解錠できるものとする。		適・否 床から ____cm		□
ア. 開き戸					
19	□取っ手は、大きく操作性の良いレバーハンドル式、又はプッシュプルハンドル式等とする。		____式		□
20	□ドアクローザーは、閉めはじめはゆっくり閉まる等、閉鎖作動時間が十分に確保され、かつ軽い力で操作できるものとする。		適・否		□
21	□戸が90度以上開くようドアクローザーの収まるスペースを確保し、戸当たりの位置を工夫するとともに、取っ手が壁にあたらぬよう、戸の吊元のスペースを確保することが望ましい。		適・否		□
イ. 手動式引き戸					
22	□自閉式上吊り引き戸(ストッパー若しくは一時停止装置又は自動閉鎖時間の調整機能を持ち、閉まり際で減速するもの)で、容易に開閉できるものとするが望ましい。		適・否		□
23	□取っ手は、握りやすい形状(棒状のもの等)とする。		適・否		□
ウ. その他					
24	□戸の形式については、建築設計標準 第2部 第2章 2.8.1 利用居室の出入口の設計標準(2)を参照。		—		□

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
④ 部品・設備等					53
ア. ヘッド					
25	□ベッド高さは、マットレス上面で45～50cm程度とする。	適・否 床から__cm		□	
26	□室内の回転スペース（又は転回（方向転換）スペース）及びベッドへの移乗スペース（有効幅員80cm以上）を確保するための客室内のレイアウト変更が可能となるよう、ベッドを床に固定することは避ける。	適・否		□	
27	□ヘッドボード高さは、マットレス上面より30cm以上することが望ましく、形状はベッド上で寄り掛かりやすいものとするが望ましい。	適・否		□	
イ. ベッドサイドキャビネット					53
28	□客室内のレイアウト変更が可能となるよう、ベッドサイドキャビネットを床に固定することは避ける。	適・否		□	
29	□高さは、マットレス上面より10cm程度高くすることが望ましい。	適・否		□	
30	□ベッド上から手の届く位置に、緊急通報ボタンを設けることが望ましい。	適・否		□	
ウ. 照明					
31	□ベッド上で室内の照明を点灯・消灯できるものとする。	適・否		□	
32	□リモコンやタブレット等で操作できるものとするが望ましい。	適・否		□	
33	□室内の照明は、間接照明とし、光源が利用者に直接見えないように配慮する。	適・否		□	
エ. 電話機					
34	□室内の電話機は、ベッドから手が届く位置に設ける。	適・否		□	
オ. インターホン（室内機）、戸の施錠・解錠ボタン、（カード）スイッチ、コンセント類					54
35	□インターホン（室内機）、戸の施錠・解錠装置（カード式含む）、スイッチ、コンセント類は、車椅子使用者の利用に適した位置、高さに設ける。	適・否		□	
36	□電動車椅子のバッテリー充電のため、客室内の利用しやすい位置の床から40cm程度の高さにコンセントを設ける。	適・否 床から__cm		□	
37	□スイッチ等は、大型で操作が容易なボタン形式のものとするが望ましい。	適・否		□	
38	□スイッチ等及び壁の仕上げ材料等は、スイッチ等と壁の色の明度、色相又は彩度の差を確保したものとすることが望ましい。	適・否		□	
39	□コンセント、スイッチ類については建築設計標準 第2部 第2章 2.13E.1 コンセント・スイッチ類を参照。	—		□	
カ. 収納等					
40	□収納は、車椅子使用者の利用に適した位置とする。	適・否		□	
41	□棚の高さは、下端：床から30～40cm程度、上端：床から100～120cm程度とする。	適・否 上端：床から__cm		□	
42	□ハンガーパイプやフックの高さは、床から100～120cm程度の低い位置とするか、高さの調節ができるものとする。	適・否 高さ__cm		□	
43	□棚やクローゼット等を設ける場合、奥行きは最大60cm程度とする。	適・否 奥行き__cm		□	
44	□収納の形状は、車椅子使用者が容易に接近できるものとする。	適・否		□	
45	□戸を設ける場合、取っ手は、高齢者、障害者等が使い易い形状のものとする。	適・否		□	
キ. カウンター、ライティングデスク等					56
46	□室内にカウンター・ライティングデスクを設ける場合、床からの上端高さは70～75cm程度、下端高さは60～65cm程度とする。	適・否 下端：床から__cm		□	
47	□室内にカウンター・ライティングデスクを設ける場合、奥行きは45cm程度とすることが望ましい。	適・否 奥行き__cm		□	
⑤ 仕上げ等					56
48	□客室の床は、滑りにくい材料で仕上げる。	適・否		□	
49	□車椅子の操作が困難になるような毛足の長い絨毯を、床の全面に使用することは避ける。	適・否		□	
⑥ バルコニー（避難用バルコニーを含む）、テラス等					56
有・無					
50	□車椅子利用者用客室にバルコニー（避難用バルコニーを含む）、テラス等を設けた場合には（以下共通）、バルコニー、テラス等への主要な出入口の有効幅員は、80cm以上とすることが望ましい。	適・否 有効幅__cm		□	
51	□バルコニー、テラス等への主要な出入口の戸は、引き戸や引き違い戸等、車椅子使用者等が容易に開閉して通過できる構造とすることが望ましい。また、その前後に高低差がないものとするが望ましい。	適・否		□	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
⑦ 便所、便房等					
57					
52	<p>□客室内の便所には、車椅子使用者が円滑に利用できる便房（以下「車椅子利用者用便房」という。）を設ける。（※1）</p> <p>※1 以下の場合は代替可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子利用者用客室が設けられている階に、車椅子利用者用便房が設けられた共用の便所が、1以上（男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ1以上）設けられている場合 	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
53	<p>□下記のほか、車椅子利用者用便房については、建築設計標準 第2部 第2章 2.7.1 個別機能を有する便房の設計標準 (1) 共通する事項、及び (2) 車椅子利用者用便房を参照。</p>		—	<input type="checkbox"/>	
ア. 出入口の有効幅員、空間の確保等					
57					
54	<p>□車椅子利用者用便房及び当該便房が設けられている便所の出入口の有効幅員は、80cm以上とする。</p>	●	適・否 有効幅 ____cm	<input type="checkbox"/>	
55	<p>□車椅子利用者用便房には、車椅子使用者が円滑に利用することができるよう、十分な空間を確保する。</p> <p>□車椅子利用者用便房の各設備を使用でき、車椅子使用者が360°回転できるよう、直径150cm以上の円が内接できるスペース（又は車椅子使用者が180°回転（方向転換）できるよう、140cm以上×140cm以上のスペース）を設ける。全体計画や客室タイプ等により、やむを得ず、直径150cm以上の円が内接できるスペース（又は140cm以上×140cm以上のスペース）を設けることができない場合には、車椅子使用者が腰掛け便座等に移乗しやすいように、幅80cm以上×奥行き120cm以上のスペースを設ける。</p>	●	適・否 □直径150cmΦ □140cm角	<input type="checkbox"/>	
56	<p>□床には段差を設けない。</p>			<input type="checkbox"/>	
イ. 戸の形式					
57					
57	<p>□車椅子利用者用便房及び当該便房が設けられている便所の戸は、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。</p>	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
58	<p>□開き戸の場合には、戸が90度以上開くようドアクローザーの取まるスペースを確保し、戸当たりの位置を工夫するとともに、取っ手が壁にあたらぬよう、戸の吊元のスペースを確保することが望ましい。</p>		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等					
57					
59	<p>□車椅子利用者用便房には、腰掛便座、手すり等を適切に配置する。</p>	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
60	<p>□腰掛便座の横壁面にペーパーホルダー、便器洗浄ボタン、呼び出しボタンを設ける場合は、JIS S 0026に基づく配置とする。</p>		適・否	<input type="checkbox"/>	
⑧ 浴室又はシャワー室					
59					
61	<p>□客室内には、車椅子使用者が円滑に利用できる浴室又はシャワー室（以下「車椅子利用者用浴室等」という。）を設ける。（※2）</p> <p>※2 以下の場合は代替可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子利用者用客室が設けられている施設内に、共用の車椅子利用者用浴室等が1以上（男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ1以上）設けられている場合 ・1以上の共用の車椅子利用者用浴室等（個室浴室、貸し切り浴室を含む）は、異性による介助に配慮し、男女が共用できる位置に設けることが望ましい。 ・共用の車椅子利用者用浴室等については、建築設計標準 第2部 第2章 2.10.1 を参照。 		適・否	<input type="checkbox"/>	
ア. 浴室等の出入口の有効幅員、空間の確保等					
59					
62	<p>□出入口の有効幅員は、80cm以上とする。</p>	●	適・否 有効幅 ____cm	<input type="checkbox"/>	
63	<p>□浴室又はシャワー室には、車椅子使用者が円滑に利用することができるよう、十分な空間を確保する。</p> <p>□浴室等の各設備を使用でき、車椅子使用者が360°回転できるよう、直径150cm以上の円が内接できるスペース（又は車椅子使用者が180°回転（方向転換）できるよう、140cm以上×140cm以上のスペース）を設ける。全体計画や客室タイプ等により、やむを得ず、直径150cm以上の円が内接できるスペース（又は140cm以上×140cm以上のスペース）を設けることができない場合には、車椅子使用者が腰掛け便座等に移乗しやすいように、幅80cm以上×奥行き120cm以上のスペースを設ける。</p>	●	適・否 □直径150cmΦ □140cm角	<input type="checkbox"/>	
64	<p>□床には段差を設けない。</p>		適・否	<input type="checkbox"/>	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
イ. 戸の形式					
65	□浴室等の戸は、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	適・否	<input type="checkbox"/>	59
66	□開き戸の場合には、戸が90度以上開くようドアクローザーの収まるスペースを確保し、戸当たりの位置を工夫するとともに、取っ手が壁にあたらぬよう、戸の吊元のスペースを確保することが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等					
67	□車椅子利用者用浴室等には浴槽、シャワー、手すり等を適切に配置する。	●	適・否	<input type="checkbox"/>	60
ウ. 部品・設備等 a. 浴槽					
68	□浴槽深さは50cm程度、エプロン高さは45cm程度（車椅子の座面の高さ程度）とする。		適・否 浴槽深さ__cm エプロン高さ__cm	<input type="checkbox"/>	60
69	□車椅子から移乗しやすいよう、浴槽の脇に移乗台を設ける。移乗台の高さは、浴槽のエプロン高さと同程度とする。移乗台は取り外し可能なものでよい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
70	□浴槽は濡れても滑りにくく、体を傷つけない材料で仕上げる。		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 b. シャワー					
71	□原則としてハンドシャワーとする。		適・否	<input type="checkbox"/>	60
72	□シャワー室・洗い場付き浴室の場合には、シャワーホースの長さは150cm以上とすることが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
73	□入浴用椅子、シャワー用車椅子、壁掛け折りたたみ椅子のいずれかを備える。		適・否	<input type="checkbox"/>	
74	□入浴用椅子等に座った状態で手が届くよう、シャワーヘッドは垂直に取り付けられたバーに沿ってスライドし、高さを調整できるものとするが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
75	□上下2箇所にシャワーヘッド掛けを設ける場合には、低い位置のシャワーヘッドかけは、入浴用椅子等に座った状態で手が届く高さに設ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 c. 手すり					
76	□浴槽を設ける場合には、浴槽出入り、浴槽内での立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	60
77	□洗い場やシャワー室を設ける場合には、入浴用椅子等に座った状態で手が届く位置に、立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 d. 浴槽及びシャワーの水栓金具					
78	□洗いの水栓金具の取り付け高さは、入浴用椅子等から手が届く位置とし、浴槽の水栓金具の取り付け高さは浴槽に座った状態で操作可能な位置とする。		適・否	<input type="checkbox"/>	60
79	□水栓金具は、レバー式等の操作のしやすいものとする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
80	□サーモスタット（自動温度調節器）付き混合水栓等、湯水の混合操作が容易なものとする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
81	□サーモスタット（自動温度調節器）には、適温の箇所に認知しやすい印等を付ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 e. 緊急通報ボタン等					
82	□緊急通報ボタン又は非常用を兼ねた浴室内電話機を車椅子使用者等が操作しやすい高さ、位置に設ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	60
83	□緊急通報ボタンを押したことが、音声による案内のほか、フラッシュライト等の点灯等により視認できることが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
エ. 仕上げ等					
84	□床は濡れても滑りにくく、転倒時や床に座ったままで移動する場合にも体を傷つけない材料で仕上げる。		適・否	<input type="checkbox"/>	60
85	□車椅子での移動の妨げにならないよう、床は水はけの良い材料で仕上げ、可能な限り排水勾配を緩やかにする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
86	□一般客室の浴室等と同様の快適性を確保できるよう、内装仕上げ材・部品・設備機器の選定・工夫、色彩・照明計画等に配慮することが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
⑨洗面器等（便所、洗面脱衣室、客室内に設ける場合を含む）					
87	□洗面器下部に車椅子使用者の膝が入るよう、洗面器下部のスペースは高さ65cm程度とする。		適・否 下部の高さ__cm	<input type="checkbox"/>	63
88	□水栓金具はシングルレバー方式等、湯水の混合操作が容易なものとする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
89	□吐水口の位置は、洗面器の手前縁から30～35cm程度とする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
90	□鏡は、洗面器上端部にできる限り近い位置を下端とし、上端は洗面器から100cm以上の高さとするが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	

2.1 (2) 一般客室		↓●:計画地に該当する地方公共団体のバリアフリー条例による義務付け[要調査]			
建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
一般客室のバリアフリー化への取り組み		67			
1	<p>□より多くの高齢者、障害者等が利用できるよう、車椅子使用者用客室以外の一般客室は、以下に配慮して設計する。</p> <p>留意点：高齢者、障害者等の利用に配慮した一般客室の整備の促進</p> <p>建築主・施設管理者、設計者等は、高齢者、肢体不自由者（車椅子使用者、杖使用者、上下肢障害者等）、妊産婦やけが人等の一時的に制限を受ける人々、児童・乳幼児等、より多くの利用者にとって使いやすい一般客室の整備を考える必要がある。一人でも多くの高齢者、障害者等が、一般客室を利用できる環境を整えるため、できるだけ多くの高齢者、障害者等の円滑な利用に配慮した一般客室の整備に取り組むことが望ましい。</p> <p>・地方公共団体においては、バリアフリー法第14条第3項に基づく条例（バリアフリー条例）において、一般客室を対象に、建築物特定施設の構造及び配置に関する基準（高齢者、障害者等の利用に配慮した一般客室の構造等の基準等）を付加し基準強化を図り、「一般客室のバリアフリー化」について、より積極的な取り組みがなされることが望ましい。</p>	対象・対象外 ____室 ____㎡		□	
②客室の出入口の有効幅員、空間の確保等		67			
2	□客室出入口の有効幅員は、80cm以上とする。	適・否 有効幅____cm		□	
3	□客室内における便所・浴室等の出入口付近の通路は、車椅子使用者の利用に支障のない、必要な有効幅員を確保する。なお、便所・浴室等の出入口（有効幅員75cm以上）に至る車椅子使用者の経路が直角路となる場合には、便所・浴室等の出入口付近における通路の有効幅員は、100cm以上とする。	適・否 通路幅____cm		□	
4	□客室内には、車椅子使用者が360°回転できるよう、直径150cm以上の円が内接できるスペース（又は車椅子使用者が180°転回（方向転換）できるよう、140cm以上×140cm以上のスペース）を、1以上設けることが望ましい。（家具等の下部に車椅子のフットレストが通過できるスペースが確保されていれば、その部分も有効スペースとする。）ベッドの移動等、客室のレイアウト変更による対応でもよい。	適・否 □直径150cmΦ □140cm角		□	
5	□車椅子使用者がベッドに移乗できるよう、ベッド側面のスペースの有効幅員は、80cm以上とする。（ベッド、テーブルや椅子等の移動によって確保されるスペースも、有効幅員とするが、この場合は施設管理者側の移動作業が増大することに留意する必要がある。）	適・否 ベッド間____cm		□	
6	□客室の床には、原則として段差を設けない。やむを得ず段差を設ける場合には、高齢者、障害者等が乗り越えやすい形状とするか、傾斜路（掘え置き型（すりつけ板等）の設置を含む）等により段差を解消する。	段差 有・無		□	
7	□壁面からの突出物を極力避けるとともに、やむを得ず突出した部分や衝突する可能性のある壁・柱・家具の角等がある場合には面取りをする、保護材を設ける等、危険防止に配慮することが望ましい。	適・否		□	
③客室の出入口の戸の形式		67			
8	□戸は、その前後に高低差がないものとする。	適・否		□	
9	□開き戸の場合には、戸が90度以上開くようドアクローザーの取まるスペースを確保し、戸当たりの位置を工夫するとともに、取っ手が壁にあたらぬよう、戸の吊元のスペースを確保することが望ましい。	適・否		□	
10	□非接触型カード錠のカードリーダーは、床から100～120cm程度の高さに設けることが望ましい。	適・否 床から____cm		□	
11	□錠（電気錠を含む）は、施錠の操作がしやすいものとし、操作がしやすい高さに設ける。	適・否		□	
12	□戸の形式については、建築設計標準 第2部 第2章 2.8.1 利用居室の出入口の設計標準（2）を参照。	—		□	
③部品・設備等		68			
ア. コンセント、スイッチ類					
13	□スイッチ等は、大型で操作が容易なボタン形式のものとすることが望ましい。	適・否		□	
14	□スイッチ及び壁の仕上げ材料等は、スイッチ等と壁の色の明度、色相又は彩度の差を確保したものとすることが望ましい。	適・否		□	
15	□コンセント、スイッチ類については建築設計標準 第2部 第2章 2.13E.1 コンセント・スイッチ類を参照。	—		□	
④便所、便房等		68			
16	□出入口の有効幅員は、改修等に対応が困難な場合を除き、原則として75cm以上とする。	適・否 有効幅____cm		□	
17	□車椅子使用者が腰掛便座等に移乗しやすいように、幅80cm以上×奥行き120cm以上のスペースを設けることが望ましい。	適・否		□	
18	□便所、便房の出入口の戸は、その前後に高低差がないものとする。	適・否		□	
19	□便房には、腰掛便座、手すり等を適切に配置する。	適・否		□	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
⑤浴室又はシャワー室					68
ア. 浴室等の出入口の有効幅員、空間の確保等					
20	□出入口の有効幅員は、改修等で対応が困難な場合を除き、原則として75cm以上とする。	適・否 有効幅 _____ cm		<input type="checkbox"/>	
21	□車椅子使用者が浴槽や入浴用椅子等に移乗しやすいように、洗い場やシャワー室には幅80cm以上×奥行き120cm以上のスペースを設けることが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	
イ. 浴室等の出入口の戸の形式					
22	□戸は、その前後に高低差（浴室内側の防水に必要な高低差（立ち上がり高さ）を除く。）がないものとする。	適・否		<input type="checkbox"/>	68
ウ. 部品・設備等					
23	□浴室等には、浴槽、シャワー、手すり等を適切に配置する。	適・否		<input type="checkbox"/>	68
ウ. 部品・設備等 a. 浴槽					
24	□浴槽は濡れても滑りにくく、体を傷つけにくい材料で仕上げる。	適・否		<input type="checkbox"/>	68
ウ. 部品・設備等 b. シャワー					
25	□原則としてハンドシャワーとする。	適・否		<input type="checkbox"/>	68
26	□入浴用椅子等に座った状態で手が届くよう、シャワーヘッドは垂直に取り付けられたバーに沿ってスライドし、高さを調整できるものとするが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	
27	□上下2箇所にシャワーヘッド掛けを設ける場合には、低い位置のシャワーヘッドは、入浴用椅子等に座った状態で手が届く高さに設ける。	適・否		<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 c. 手すり					
28	□浴槽を設ける場合には、浴槽出入り、浴槽内での立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設けることが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	69
29	□洗い場やシャワー室を設ける場合には、入浴用椅子等に座った状態で手が届く位置に立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設けることが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 d. 浴槽及びシャワーの水栓金具					
30	□サーモスタット（自動温度調節器）付き混合水栓等、湯水の混合操作が容易なものとする。	適・否		<input type="checkbox"/>	
31	□サーモスタット（自動温度調節器）には、適温の箇所に認知しやすい印等を付ける。	適・否		<input type="checkbox"/>	
ウ. 部品・設備等 e. 洗面器等（脱衣場に設ける場合を含む。）					
32	□水栓金具はシングルバー方式等、湯水の混合操作が容易なものとする。	適・否		<input type="checkbox"/>	69
エ. 仕上げ等					
33	□床は濡れても滑りにくく、体を傷つけにくい材料で仕上げる。	適・否		<input type="checkbox"/>	69
⑥その他					69
20	□上記以外の一般客室における設計標準は、追補版 2.1 客室の設計標準（1）車椅子使用者用客室を参考とすることが望ましい。	—		<input type="checkbox"/>	

2.1 (3) 案内標示、情報伝達設備等					
建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
□より多くの高齢者、障害者等が利用できるよう、車椅子使用者用客室及びそれ以外の一般客室は、以下に配慮して設計する。		—		<input type="checkbox"/>	
①室名表示等					44
1	□戸の取っ手側の壁面又は出入口の戸に、室名（部屋番号等）を表示する。	適・否		<input type="checkbox"/>	
2	□室名表示は文字の浮き彫りとするか点字を併記する等、視覚障害者等の利用に配慮する。	適・否		<input type="checkbox"/>	
3	□室名表示及び客室出入口の戸等に設ける避難情報及び避難経路の表示は、大きめの文字を用い、漢字はひらがなを併記する、図記号等を併記する等、高齢者、障害者等にわかりやすい表現とする。	適・否		<input type="checkbox"/>	
4	□室名表示及び客室出入口の戸等に設ける避難情報及び避難経路の表示は、文字・図記号、図、背景の色の明度、色相又は彩度の差を確保したものとすることが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	
5	□室名表示については、建築設計標準 第2部 第2章 2.8.1 利用居室の出入口の設計標準（4）を参照	—		<input type="checkbox"/>	
6	□表示板については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13.G.1 案内表示を参照。	—		<input type="checkbox"/>	
②客室の鍵					44
7	□視覚障害者に配慮し、客室の鍵は、わかりやすく操作しやすいものとする。	適・否		<input type="checkbox"/>	
③字幕表示が可能なテレビのリモコン					44
8	□聴覚障害者等に配慮し、テレビは字幕放送の表示が可能なものとし、字幕表示が可能なリモコンを客室に備える。	適・否		<input type="checkbox"/>	
④シャンプー等の容器					44
9	□シャンプー・リンス・ボディソープ等の容器は、視覚障害者が手で触れて区別することができるものを設けることが望ましい。	適・否		<input type="checkbox"/>	
⑤非常警報装置（ハード面）					44
10	□フラッシュライト等の火災警報装置（光警報装置）の設置といった「ハード面（施設整備）」のほか、点滅や振動によって伝える室内信号装置（ドアノック音等を受信する装置）の貸し出し等、聴覚障害者等への非常時の情報伝達に配慮する。ソフト面の工夫とあわせて計画することが重要である。	適・否		<input type="checkbox"/>	
11	□室内信号装置については、追補版 2.3 ソフト面の工夫（1）①を参照。	—		<input type="checkbox"/>	
12	□情報伝達設備については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13.I.1 情報伝達設備を参照。	—		<input type="checkbox"/>	

単位空間等の設計 (共用部分)		↓●：特別特定建築物を建築する場合の適合義務基準 (利用居室とされる場合) ↓○：建築物移動等円滑化誘導基準 (浴室等を利用居室とされ、誘導基準とする場合) □：追補版に追加するバリアフリー法の基準 (建築設計標準H28.3参照)			
建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
【共通】移動等円滑化経路 (政令第18条第2号)					
1	□当該移動等円滑化経路上に階段又は段を設けないこと。ただし、傾斜路又はエレベーターその他の昇降機を併設する場合は、この限りでない。	●	適・否	□	
①敷地内の通路					32
2	□敷地内の通路については、建築設計標準 第2部 第2章 2.1 敷地内の通路を参照。		—	□	
ア. 敷地内の通路 (政令第16条第1項)			有・無		
3	□表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。	●	適・否	□	
イ. 段がある部分 (政令第16条第2項)			有・無		
4	□手すりを設ける。	●	適・否	□	
5	□路面の端部とその周囲の部分との色の明度、色相又は彩度の差が大ききことにより段を容易に識別できるものとする。	●	適・否	□	
6	□段鼻の突き出しその他のつまずきの原因となるものを設けない構造とする。	●	適・否	□	
ウ. 傾斜路 (政令第16条第3項)			有・無		
7	□勾配が1/12を超え、又は高さが16cmを超え、かつ、勾配が1/20を超える傾斜がある部分には、手すりを設ける。	●	適・否	□	
8	□その前後の通路との色の明度、色相又は彩度の差が大ききことによりその存在を容易に識別できるものとする。	●	適・否	□	
エ. 移動等円滑化経路を構成する敷地内通路 (政令第18条第2項7号)			有・無		
9	□幅は、120cm以上とする。	●	適・否	□	
10	□50m以内ごとに車いすの転回に支障がない場所を設ける。	●	適・否	□	
11	□戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	適・否	□	
オ. 移動等円滑化経路を構成する傾斜路 (政令第18条第2項7号)			有・無		
12	□幅は、階段に代わるものにあつては120cm以上、階段に併設するものにあつては90cm以上とする。	●	適・否	□	
13	□勾配は、1/12を超えないこと。ただし、高さが16cm以下のものにあつては、1/8を超えないものとする。	●	適・否	□	
14	□高さが75cmを超えるもの (勾配が1/20を超えるものに限る。) にあつては、高さ75cm以内ごとに踏幅が150cm以上の踊場を設ける。	●	適・否	□	
②駐車場					32
15	□駐車場については、建築設計標準 第2部 第2章 2.2 駐車場を参照。		—	□	
ア. 駐車場 (政令第17条)			有・無		
16	□駐車場を設ける場合には、そのうち1以上に、車いす使用者が円滑に利用することができる駐車施設 (以下「車椅子使用者用駐車施設」という。) を1以上設ける。	●	適・否	□	
17	□車椅子使用者用駐車施設の幅は、350cm以上である。	●	適・否	□	
18	□車椅子使用者用駐車施設は、利用居室までの経路がの長さができるだけ短くなる位置に設ける。	●	適・否	□	
③建築物の出入口					32
ア. 出入口の有効幅員、空間の確保等			有・無		32
19	□高齢者、障害者等他の利用者が同じ出入口を利用できるように計画する。		適・否	□	
20	□主要な経路上の出入口の有効幅員は、80cm以上とする。	●	適・否 有効幅 _____cm	□	
21	□主要な経路上の出入口には、階段又は段を設けない。(傾斜路又はエレベーターその他の昇降機を併設する場合は除く。)	●	適・否	□	
イ. 受付カウンター、インターホン等			有・無		33
22	□高齢者、障害者等の移動支援や案内・誘導等の人的対応ができるよう、建築物の出入口に近い位置にフロント又は点字・音声等による案内設備 (インターホン等) を設ける。		適・否	□	
23	□インターホン等の音声等による案内設備は、立位と車椅子使用者両者が利用できる高さに設ける。		適・否 床から _____cm	□	
24	□インターホン等の音声等による案内設備には点字表示を設ける。		適・否	□	
25	□聴覚障害者等に配慮し、インターホンはカメラ付きとする。		適・否	□	
26	□フロント等の動線の要所には、高齢者、障害者等の見やすい位置に避難誘導や各階案内等の表示板を設ける。		適・否	□	
27	□フロント等には、立位で使用するハイカウンター及び、座位で使用する高齢者等や車椅子使用者対応のローカウンターを設ける。		適・否	□	
28	□カウンターについては、建築設計標準 第2部 第2章 2.13C.1 カウンター・記載台・作業台・事務机等を参照。		—	□	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
ウ. 視覚障害者誘導用ブロック等 (政令第20条を含む)			有・無		33
29	<p>□道等から、フロント又は点字・音声等による案内設備に至る主要な通路には、視覚障害者の誘導を行うために、線状ブロック等及び点状ブロック等を適切に組み合わせ、敷設するか、音声その他の方法により視覚障害者を誘導する設備を設ける。(※1)</p> <p>※1 以下の部分、場合を除く。 ・進行方向を変更する必要がない風除室内 ・フロント等から直接地上へ通ずる出入口を容易に視認でき、かつ、道等から当該出入口までの経路に、視覚障害者誘導用ブロックの敷設又は音声その他の方法により視覚障害者を誘導する設備を設ける場合</p>	●	適・否	□	
30	<p>□道等から点字・音声等による案内設備又はフロントに至る主要な経路で、車路に近接する部分、段がある部分又は傾斜がある部分の上端に近接する部分には、視覚障害者に対し警告を行うために、点状ブロック等を敷設する。(※2)</p> <p>※2 以下の場合を除く。 ・勾配が1/20を超えない傾斜がある部分の上端に近接するもの ・高さが16cmを超えず、かつ、勾配が1/12を超えない傾斜がある部分の上端に近接するもの ・段がある部分若しくは傾斜がある部分と連続して手すりを設ける踊場等</p>	●	適・否	□	
31	□視覚障害者誘導用ブロック等の色は、黄色を原則とし、視覚障害者誘導用ブロック等とその周囲の床面との色の明度、色相又は彩度の差が大ききことにより容易に識別できるものとする。		適・否	□	
32	□視覚障害者誘導用ブロック等については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13H.1 視覚障害者誘導用設備を参照。		—	□	
ウ. 案内設備までの経路 (政令第20条)					
33	□道等から案内設備(点字その他の方法(文字等の浮き彫り又は音による案内等)により視覚障害者に示す設備)、又は案内所までの経路は、そのうち1以上を視覚障害者が円滑に利用できる経路(以下、「視覚障害者移動等円滑化経路」という。)を設ける。	●	—	□	
エ. その他					
34	□建築設計標準 第2部 第2章 2.3 建築物の出入口を参照。		—	□	
オ. 移動等円滑化経路を構成する出入口 (政令第18条第2項第1号)			有・無		
35	□幅は、80cm以上とすること。	●	適・否	□	
36	□戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	適・否	□	
④ 屋内の通路 (政令第18条第2項を含む)					34
37	□主要な通路(道等から車椅子使用者用客室に至る屋内の通路、車椅子使用者用便所・車椅子使用者用駐車施設から車椅子使用者用客室に至る屋内の通路等)には、傾斜路又はエレベーターその他の昇降機を併設する場合を除き、階段又は段を設けない。	●	適・否	□	
38	□道等から一般客室に至る屋内の通路、車椅子使用者用便所・車椅子使用者用駐車施設から一般客室に至る屋内の通路においても、傾斜路又はエレベーターその他の昇降機を併設する場合を除き、階段又は段を設けないことが望ましい。	●	適・否	□	
39	□床及び壁の仕上げ材料は、床面と壁面の境界部分の色の明度、色相又は彩度の差が大ききことにより、その境界を容易に識別できるものとすることが望ましい。		適・否	□	
40	□その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.4 屋内の通路を参照。		—	□	
ア. 廊下等 (政令第11条)			有・無		
41	□表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。	●	適・否	□	
42	□階段又は傾斜路(階段に代わり、又はこれに併設するものに限る。)の上端に近接する廊下等の部分(不特定かつ多数の者が利用し、又は主として視覚障害者が利用するものに限る。)には、視覚障害者に対し段差又は傾斜の存在の警告を行うために、点状ブロック等(床面に敷設されるブロックその他これに類するものであって、点状の突起が設けられており、かつ、周囲の床面との色の明度、色相又は彩度の差が大ききことにより容易に識別できるものをいう。)を敷設する。	●	適・否	□	
イ. 移動等円滑化経路を構成する廊下等 (政令第18条第2号第3項)			有・無		
43	□幅は、120cm以上とすること。	●	適・否	□	
44	□50m以内ごとに車いすの転回に支障がない場所を設ける。	●	適・否	□	
45	□戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	適・否	□	
ウ. 階段に代わり、又はこれに併設する傾斜路 (政令第13条)			有・無		
46	□勾配が1/12を超え、又は高さが16cmを超える傾斜がある部分には、手すりを設ける。	●	適・否	□	
47	□表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。	●	適・否	□	
48	□その前後の廊下等との色の明度、色相又は彩度の差が大ききことによりその存在を容易に識別できるものとする。	●	適・否	□	
49	□傾斜がある部分の上端に近接する踊場の部分(不特定かつ多数の者が利用し、又は主として視覚障害者が利用するものに限る。)には、視覚障害者に対し警告を行うために、点状ブロック等を敷設する。	●	適・否	□	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
Ⅰ. 移動等円滑化経路を構成する傾斜路等(政令第18条第4号第4項) (階段に代わり、又はこれに併設するものに限る。)			有・無		
50	□幅は、120cm以上とする。幅は、階段に代わるものにあつては120cm以上、階段に併設するものにあつては90cm以上とする	●	適・否	□	
51	□勾配は、1/12を超えないこと。ただし、高さが16cm以下のものにあつては、1/8を超えないものとする。	●	適・否	□	
52	□高さが75cmを超えるものにあつては、高さ75cm以内ごとに踏幅が150cm以上の踊場を設ける。	●	適・否	□	
⑤ 階段					35
53	□建築設計標準 第2部 第2章 2.5 階段を参照。		—	□	
ア. 階段(政令第12条)			有・無		
54	□踊場を除き、手すりを設ける。	●	適・否	□	
55	□表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げる。	●	適・否	□	
56	□踏面の端部とその周囲の部分との色の明度、色相又は彩度の差が大きいことにより段を容易に識別できるものとする。	●	適・否	□	
57	□段鼻の突き出しその他のつまずきの原因となるものを設けない構造とする。	●	適・否	□	
58	□段がある部分の上端に近接する踊場の部分(不特定かつ多数の者が利用し、又は主として視覚障害者が利用するものに限る。)には、視覚障害者に対し警告を行うために、点状ブロック等を敷設する。	●	適・否	□	
59	□主たる階段は、回り階段でない。ただし、回り階段以外の階段を設ける空間を確保することが困難であるときは、この限りではない。	●	適・否	□	
⑥ エレベーター・エスカレーター					35
60	□着床階を客室カードキーで管理するエレベーターを設けている場合、カードリーダ認識部の位置は、車椅子使用者に配慮した高さとするのが望ましい。		適・否	□	
61	□エレベーターホール等の動線の要所には、高齢者、障害者等の見やすい位置に、各階案内等の表示板を設ける。		適・否	□	
62	□その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.6 エレベーター・エスカレーターを参照。		適・否	□	
ア. エレベーター及びその乗降ロビー(政令第18条第2項第5号)			有・無		
63	□かご(人を乗せ昇降する部分をいう。以下この号において同じ。)は、利用居室、車いす使用者用便所又は車いす使用者用駐車施設がある階及び地上階に停止する。	●	適・否	□	
64	□かご及び昇降路の出入口の幅は、80cm以上とする。	●	適・否	□	
65	□かごの奥行きは、135cm以上とする。	●	適・否	□	
66	□乗降ロビーは、高低差がないものとし、その幅及び奥行きは、150cm以上とする。	●	適・否	□	
67	□かご内及び乗降ロビーには、車いす使用者が利用しやすい位置に制御装置を設ける。	●	適・否	□	
68	□かご内に、かごが停止する予定の階及びかごの現在位置を表示する装置を設ける。	●	適・否	□	
イ. 不特定かつ多数の者が利用する建築物(床面積2,000㎡以上の建築物に限る。)の移動等円滑化経路を構成するエレベーター			対象・対象外		
69	□上記のア. に定めるものを満たす。	●	適・否	□	
70	□かごの幅は、140cm以上とする。	●	適・否	□	
71	□かごは、車いすの転回に支障がない構造とする。	●	適・否	□	
ウ. 不特定かつ多数の者が利用し、又は主として視覚障害者が利用するエレベーター及び乗降ロビー			対象・対象外		
72	□上記のア. とイ. に定めるものを満たす。	●	適・否	□	
73	□かご内に、かごが到着する階並びにかご及び昇降路の出入口の戸の閉鎖を音声により知らせる装置を設ける。	●	適・否	□	
74	□かご内及び乗降ロビーに設ける制御装置(車いす使用者が利用しやすい位置及びその他の位置に制御装置を設ける場合にあつては、当該その他の位置に設けるものに限る。)は、点字その他国土交通大臣が定める方法により視覚障害者が円滑に操作することができる構造とする。	●	適・否	□	
75	□かご内又は乗降ロビーに、到着するかごの昇降方向を音声により知らせる装置を設ける。	●	適・否	□	
⑦ 便所・洗面所(政令第14条・告示1496号を含む。)					35
76	□便所のうち1以上(男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ1以上)には、車椅子使用者が円滑に利用することができる構造の便所(以下「車椅子使用者用便所」)を1以上設ける。	●	適・否	□	
77	□手すり、腰掛便座等を適切に配置する。	●	適・否	□	
78	□車椅子使用者が円滑に利用できるような十分な空間を確保する。	●	適・否	□	
79	□便所のうち1以上(男子用及び女子用の区別があるときは、それぞれ1以上)には、オストメイト用設備を有する便所を1以上設ける。	●	適・否	□	
80	□異性介助に配慮し、少なくとも1以上の車椅子使用者用便所は、男女が共用できる位置に設ける。		適・否	□	
81	□共用の車椅子使用者用便所の位置は、フロント階のほか、宴会場・ホール、レストラン・食堂、共同浴室等の利用居室と同一階とすることが望ましい。		適・否	□	
82	□客室階に設ける便所には、共用の車椅子使用者用便所を1以上設けることが望ま		適・否	□	
83	□その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.7 便所・洗面所を参照。		—	□	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
ア. 便所 (政令第14条)					
84	□不特定かつ多数の者が利用し、又は主として高齢者、障害者等が利用する男子用小便器のある便所を設ける場合には、そのうち1以上に、床置き式の小便器、壁掛式の小便器(受け口の高さが35cm以下のものに限る。)その他これらに類する小便器を1以上設ける。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
イ. 車椅子使用者用便所 (客室内を除く) (政令第18条第1項第2号)					
85	□出入口の幅は80cm以上とする。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
86	□戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
⑧共同浴室(貸切風呂・大浴場・シャワー室)、脱衣室					35
ア. 共同浴室(貸切風呂・大浴場・シャワー室)					
87	□ホテル又は旅館に共同浴室を設ける場合には、異性による介助に配慮し、男女が共用できる位置に、個室タイプの「車椅子使用者も利用できる浴室(貸し切り浴室)」を1以上設けることが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
88	□ホテル又は旅館に共同浴室(大浴場)を設ける場合には、共同浴室(大浴場)の一部に、車椅子使用者が利用できる洗い場・浴槽・シャワー室を設けることが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
89	□出入口の有効幅員は、80cm以上とすることが望ましい。	●	有・無 適・否 有効幅 _____ cm	<input type="checkbox"/>	
90	□共同浴室内の通路や洗い場は、車椅子使用者が円滑に利用することができるよう、十分な空間を確保することが望ましい。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
91	□出入口に戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとすることが望ましい。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
92	□水処理等のために、やむを得ず高低差が生じる場合には、スノコや傾斜路(据え置き型のすりつけ板を含む)等の設置等により高低差を解消することが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
93	□車椅子から移乗しやすいよう、浴槽の縁には移乗台を設けることが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
94	□浴槽出入り、浴槽内での立ち座り・姿勢保持のための手すりを設けることが望ましい。また洗い場やシャワー室には入浴椅子から手が届く位置に立ち座り・姿勢保持のための手すりを設けることが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
95	□貸し切り風呂・大浴場・シャワー室については、建築設計標準 第2部 第2章 2. 10. 1 浴室・シャワー室の設計標準を参照。		有・無 —	<input type="checkbox"/>	
ア. 浴室等 (省令第13条・告示1484号)					
96	□多数の者が利用する浴室等を設ける場合には、そのうち1以上(男子用及び女子用の別があるときは、それぞれ1以上)設ける。	◎	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
97	□車椅子使用者用浴室等である。(浴槽、シャワー、手すり等を適切に配置する。車椅子使用者が円滑に利用することができるよう、十分な空間を確保する。)	◎	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
98	□出入口の有効幅員は、80cm以上とする。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
99	□出入口に戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとする。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
イ. 脱衣室					
100	□出入口の有効幅員は、80cm以上とすることが望ましい。	●	有・無 適・否 有効幅 _____ cm	<input type="checkbox"/>	
101	□車椅子使用者が円滑に利用することができるよう、十分な空間を確保することが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
102	□出入口に戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その前後に高低差がないものとすることが望ましい。	●	有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
103	□水処理等のために、やむを得ず高低差が生じる場合には、スノコや傾斜路(据え置き型のすりつけ板を含む)等の設置等により高低差を解消することが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
104	□高齢者、肢体不自由者(車椅子使用者、杖使用者、上下肢障害者等)等が着替えの際に、横になる場合もあるため、脱衣室には1以上の脱衣のためのベンチを設けることが望ましい。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
105	□脱衣室内の車椅子使用者の脱衣・更衣等のスペースの近くに、車椅子使用者用の収納棚やロッカー等を設けることが望ましい。車椅子使用者用の収納棚の高さは、下端：床から30~40cm程度、上端：床から100~120cm程度とし、奥行きは最大60cm程度とする。		有・無 適・否	<input type="checkbox"/>	
106	□脱衣室については、建築設計標準 第2部 第2章 2. 10. 2 脱衣室・更衣室等の設計標準を参照。		有・無 —	<input type="checkbox"/>	

建築設計標準		基準	設計対応状況	チェック欄	該当頁
⑨ レストラン・食堂、宴会場・バンケットホール、売店等（車椅子使用者の利用が想定される場合）					44
107	<input type="checkbox"/> 出入口の有効幅員は、80cm以上とすることが望ましい。	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
108	<input type="checkbox"/> 戸を設ける場合には、自動的に開閉する構造その他の車椅子使用者が容易に開閉して通過できる構造とし、かつ、その後高低差がないものとすることが望ましい。	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
109	<input type="checkbox"/> 床には、段差を設けないことが望ましい。	●	適・否	<input type="checkbox"/>	
110	<input type="checkbox"/> レストラン・食堂、宴会場は車椅子使用者に配慮し、テーブル席とすることが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
111	<input type="checkbox"/> カウンター等については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13C.1 カウンター・記載台・作業台・事務机等を参照。		適・否	<input type="checkbox"/>	
112	<input type="checkbox"/> 自動販売機は、金物投入口、操作ボタン及び取り出し口等の高さが、それぞれ床から40～110cm程度の範囲に収まるものを選ぶことが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
113	<input type="checkbox"/> 難聴者等に配慮し、宴会場・ホールには聴覚障害者用集団補聴装置（磁気ループシステム、FM補聴装置（無線式）、または赤外線補聴システム）等を設けることが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
⑩ 乳幼児等用設備					44
114	<input type="checkbox"/> 宴会場・バンケットホール、レストラン・食堂、共同浴室等の利用居室と同一階に、授乳のためのスペースを設けることが望ましい。		適・否	<input type="checkbox"/>	
115	<input type="checkbox"/> 授乳のためのスペースには、授乳のための椅子、乳幼児用おむつ交換台等を適切に設ける。		適・否	<input type="checkbox"/>	
116	<input type="checkbox"/> その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13F.1 乳幼児等用設備を参照。		—	<input type="checkbox"/>	
⑪ 案内標示					44
117	<input type="checkbox"/> 表示板等は、大きめの文字を用いる、図記号等を併記する、同一施設内・同一施設間の統一を図る等、高齢者、障害者等にわかりやすいデザインとする。		適・否	<input type="checkbox"/>	
118	<input type="checkbox"/> その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13G.1 案内表示を参照。		—	<input type="checkbox"/>	
ア. 標識（政令第19条・省令第14条）			有・無		
119	<input type="checkbox"/> エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の付近には、それぞれ、当該エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設があることを表示する標識を設ける。	●	—	<input type="checkbox"/>	
120	<input type="checkbox"/> エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の付近には、それぞれ、当該エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設があることを表示する標識を、高齢者、障害者等の見やすい位置に設ける。	●	—	<input type="checkbox"/>	
121	<input type="checkbox"/> この標識は、内容が容易に識別できるものである。（当該内容が日本工業規格 Z8210に定められているときは、これに適合するもの）	●	—	<input type="checkbox"/>	
イ. 案内設備（政令第20条）			有・無		
122	<input type="checkbox"/> エレベーターその他の昇降機、便所又は駐車施設の配置を表示した案内板その他の設備を設けている。ただし、配置を容易に視認できる場合はこの限りではない。	●	—	<input type="checkbox"/>	
123	<input type="checkbox"/> エレベーターその他の昇降機、便所の配置を、点字その他の方法（文字等の浮き彫り又は音による案内等）により視覚障害者に示す設備を設ける。	●	—	<input type="checkbox"/>	

災害時の避難・誘導		建築設計標準	**	設計対応状況	チェック欄	該当頁
①避難時の認知性(わかりやすさ)と安全性を確保する						40
1	<input type="checkbox"/> ホテル又は旅館の計画・設計に際しては、非常時において、高齢者、障害者等に対する安全、確実、迅速な避難誘導が可能となるよう、十分に計画に組み込んでおくことが求められる。		適・否		<input type="checkbox"/>	
2	<input type="checkbox"/> 高齢者、障害者等を含めた全ての利用者にとって、わかりやすい動線計画(移動経路と避難経路の計画)が避難・誘導計画の基本である。		適・否		<input type="checkbox"/>	
3	<input type="checkbox"/> 大規模なホテルや旅館等、施設規模が大きい場合や施設構成が複雑な場合、避難経路がわかりにくいこともある。避難介助を必要とする高齢者、障害者等にとって避難に時間を要し、迅速な避難が困難になることをあらかじめ想定して避難経路の計画を行う。		適・否		<input type="checkbox"/>	
4	<input type="checkbox"/> 平時における安全かつ円滑な移動経路等の確保は、非常時の敷地内・施設内事故防止にもつながるものである。また車椅子利用者等のための一時待避スペースの設置、高齢者、障害者等の特性に対応した避難手法(階段・その他の垂直移動方法)の確保、避難設備の設置等においても、きめ細かな配慮が必要となる。		適・否		<input type="checkbox"/>	
5	<input type="checkbox"/> 停電・非常時に備えて、非常用自家発電装置の設置により、フロント・ロビー・車椅子利用者用便房等の共用部に、非常用一般電源(空調・照明・電源等)を供給できるバックアップ計画を検討し、高齢者、障害者等が安心して宿泊することができる施設とすることが望ましい。		適・否		<input type="checkbox"/>	
②情報伝達、避難・誘導のための設備を配置する						40
6	<input type="checkbox"/> 全ての利用者が安全に速やかに避難するためには、非常事態(火災、地震、津波等)であることを、利用者の混乱防止に配慮した上で速やかに伝達する必要がある。		—		<input type="checkbox"/>	
7	<input type="checkbox"/> 特に、視覚障害者や聴覚障害者、外国人等に情報提供を行うための配慮が重要となる。		適・否		<input type="checkbox"/>	
8	<input type="checkbox"/> 避難情報及び避難経路の表示は、大きめの文字を用いる、漢字以外にひらがな、外国語を併記する、図記号等を併記する等、高齢者、障害者等にわかりやすいデザインとする。		適・否		<input type="checkbox"/>	
9	<input type="checkbox"/> また避難情報及び避難経路の表示は、文字・図記号、図、背景の色の明度、色相又は彩度の差を確保したものとすることが望ましい。		適・否		<input type="checkbox"/>	
10	<input type="checkbox"/> 表示板については、建築設計標準 第2部 第2章 2.13G.1 案内表示を参照。		適・否		<input type="checkbox"/>	
11	<input type="checkbox"/> 施設を利用する高齢者や障害者等に、情報を伝達できる同伴者がいないことから、非常事態であることを伝達するための様々な障害に対応した設備(音声・文字・図記号・光等)、利用者を速やかに避難階や屋外に誘導するための避難経路の表示や設備(音声・文字・図記号・光等)を設ける		適・否		<input type="checkbox"/>	
12	<input type="checkbox"/> 聴覚障害者等に非常事態の発生を伝えるための手段として、光警報装置の設置のほか、屋内信号装置等の情報伝達設備(貸し出し備品)や、緊急時のコミュニケーション手段となる筆談ボード等の備品を準備する。		適・否		<input type="checkbox"/>	
13	<input type="checkbox"/> その他については、追補版1.2(2)⑤案内・誘導等に必要な人的配置、情報提供等の方法に配慮する(ソフト面の工夫)、及び⑦火災や地震等、非常時の対応を計画し、取り組む、を参照。		適・否		<input type="checkbox"/>	
③火災時の避難設備・施設を計画する						41
14	<input type="checkbox"/> 火災時の避難にあたっては、まず火災元と隔てられたところに移動することが重要であり、ホテル又は旅館の計画・設計においては、二方向の避難経路の確保、高齢者、障害者等の一時的な待避場所の確保について検討する。		—		<input type="checkbox"/>	
15	<input type="checkbox"/> 避難経路(廊下や出入口等)には、車椅子利用者等が防火戸等を通過する際に、移動上の障壁となる段差を設けない。		適・否		<input type="checkbox"/>	
16	<input type="checkbox"/> また避難に時間を要し、避難介助を必要とすることが想定されるため、車椅子利用者用客室の設けられた階には、防火戸等を通過した先に、一時的な安全を確保するための一時待避スペース(他の部分と防火区画された非常用エレベーターの乗降ロビー、屋内階段や付室、避難バルコニー等)を設けることが望ましい。		適・否		<input type="checkbox"/>	
■一時待避スペースを設ける場合には、以下のような具体的な対応が考えられる。			有・無			41
17	<input type="checkbox"/> 一時待避スペースは、階段の踊場、階段に隣接したバルコニー、付室又は乗降ロビー等の一部に、避難動線の妨げとならないように設ける。		適・否		<input type="checkbox"/>	
18	<input type="checkbox"/> 一時待避スペースの構造は、十分な耐火性能や防火性能等を有するものとする。		適・否		<input type="checkbox"/>	
19	<input type="checkbox"/> 一時待避スペースには、車椅子使用者が待避するのに十分な空間を確保する。		適・否		<input type="checkbox"/>	
20	<input type="checkbox"/> 一時待避スペースには、助けを求めたり状況を伝えたりするために、中央管理室又は防災センターに連絡可能なインターホンを設けることが望ましい。		適・否		<input type="checkbox"/>	
21	<input type="checkbox"/> 一時待避スペース設ける場合は、出入口の戸等に一時待避スペースが設けてある旨をわかりやすく表示する。		適・否		<input type="checkbox"/>	
22	<input type="checkbox"/> その他については、建築設計標準 第2部 第2章 2.12 避難設備・施設を参照。		適・否		<input type="checkbox"/>	

巻末資料 2 客室・浴室等に関する国際的な基準

INTERNATIONAL STANDARD ISO 21542 First edition 2011-12-15 Building construction - Accessibility and usability of the built environment

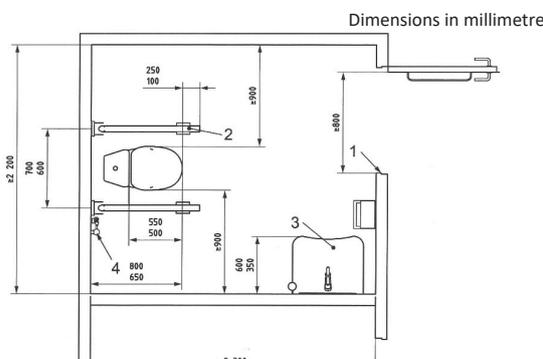
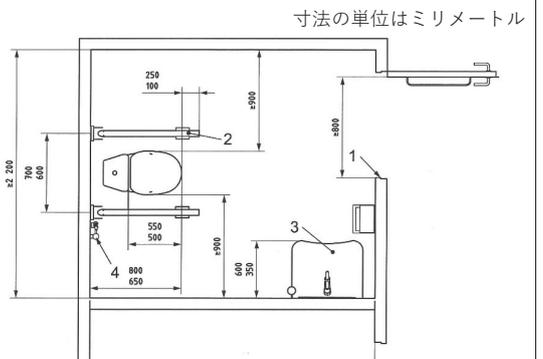
(国際標準 ISO 21542 初版 2011 年 12 月 15 日 建物の構築 - 建築環境のアクセスのしやすさと使いやすさ)

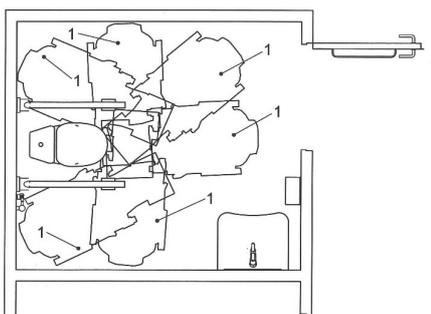
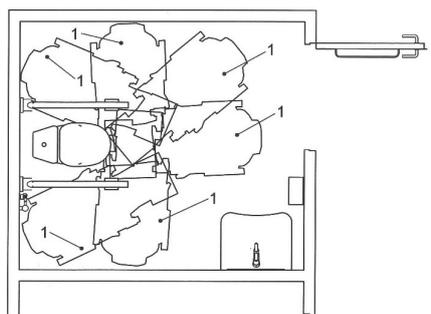
- ISO 規格は、ISO(International Organization for Standardization: 国際標準化機構)によって作成される規格であり、ISO 21542 は、設計者、利用者、建築主、審査者、施設管理者、エンジニア、施工業者、行政等に、アクセス可能で持続可能な建築環境をつくるための要件および推奨事項を提供するものである。
- 以下に、ホテル又は旅館及び客室等に関連する内容の抜粋を示す。

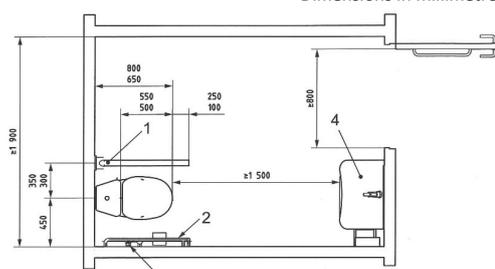
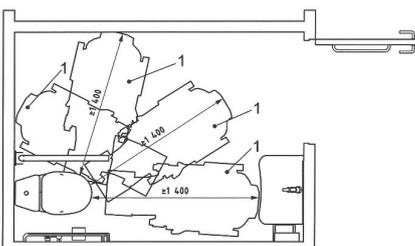
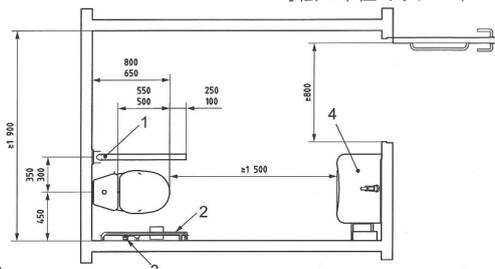
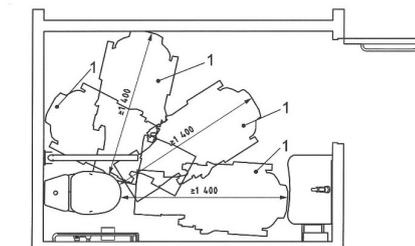
ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26 Toilet rooms and sanitary rooms</p> <p>26.3 Wheelchair user accessible toilet rooms</p> <p>Fixtures and fittings in sanitary facilities should visually contrast with the items and surface on which they are positioned.</p> <p>The minimum illumination measured at 800 mm above floor level shall be 200 lux in the area of the washbasin.</p> <p>The floor surface shall be slip resistant, anti-glare and firm.</p> <p>Light switches should be fixed inside all accessible toilet cubicles or the light should automatically switch on when someone enters the room. Timed light switches should not be installed or used.</p>	<p>26 トイレおよび衛生設備を使う室</p> <p>26.3 車椅子使用者に対応したトイレ</p> <p>衛生施設における備品や付属品は、配置されている製品や表面と視覚的コントラストを確保すべきである。</p> <p>床上 800mm で測定された最小照度は、手洗器周辺で 200lx とする。</p> <p>床面は滑りにくく、防眩性があり、硬いものとする。</p> <p>照明スイッチは、バリアフリー対応の全てのトイレブース内に設置するか、人が入室すると自動的に点灯するものとする。時限式の照明スイッチは、設置または使用しないこと。</p>

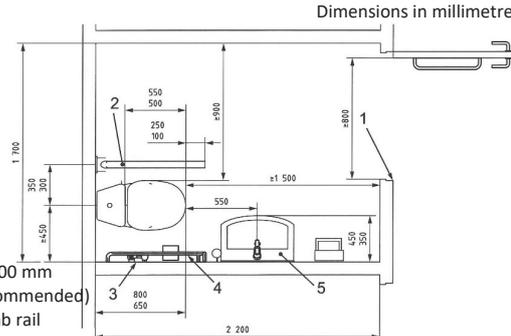
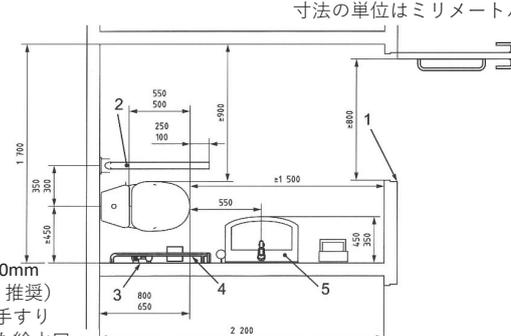
ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.4 Dimensions for wheelchair user accessible toilet rooms</p> <p>26.4.1 General</p> <p>The dimensions for wheelchair user accessible toilet rooms depend on the functions they must meet. This International Standard gives the characteristics and requirements for the three types (A, B, C) of toilets most commonly used in the world. National regulations shall decide on the priority of the functions to be met and recommend which type of toilet room is to apply for different building types and which type is acceptable for existing buildings.</p> <p>The clear manoeuvring space of the toilet room shall allow frontal, oblique and lateral transfer.</p> <p>Type A allows right and left lateral transfer, and may be more suitable when assistance is needed. Types B and C only allow one side transfer.</p> <p>When more than one accessible corner toilet type B or C is planned, a choice of layouts suitable for left hand and right hand transfer should be provided.</p> <p>Layout of wheelchair user accessible toilet rooms should provide toilets usable by both sexes.</p> <p>The clear manoeuvring space at floor level in front of the toilet seat and the washbasin shall be 1500mm x 1500mm, except for type C where 300mm under the washbasin is accepted as part of the total manoeuvring space.</p>	<p>26.4 車椅子利用者に対応したトイレの寸法</p> <p>26.4.1 一般</p> <p>車椅子利用者に対応したトイレの寸法は、満たす必要がある機能によって異なる。この国際標準では、世界で最も一般的に使用されている 3 種類のトイレ (A、B、C) の特徴と要件を示す。国内の法規において、満たすべき機能の優先順位を決定し、どのタイプのトイレをどのタイプの建物に適用するか、およびどのタイプのトイレが既存の建物で受け入れられるかを推奨する。</p> <p>トイレの有効動作域においては、正面、斜め、および横方向からの移乗が可能でなければならない。</p> <p>A タイプは、左右からの横方向の移乗を可能にし、援助が必要なときにより適していると言える。B タイプと C タイプは、片側のみからの移乗を可能にする。</p> <p>片寄せタイプのバリアフリー対応の B タイプまたは C タイプのトイレが複数計画される場合は、右側または左側からの移乗に適したレイアウトの選択肢を提供する必要がある。車椅子利用者に対応したトイレのレイアウトでは、男女ともに使用可能なトイレを提供すべきである。</p> <p>便座と手洗器の前の床の有効動作域は、1500mm x 1500mm とする。ただし、タイプ C に関しては、手洗器下の 300mm を全有効動作域の一部として良い。</p>

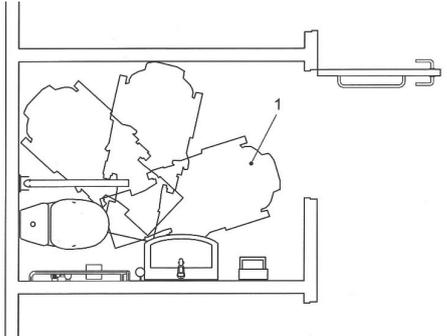
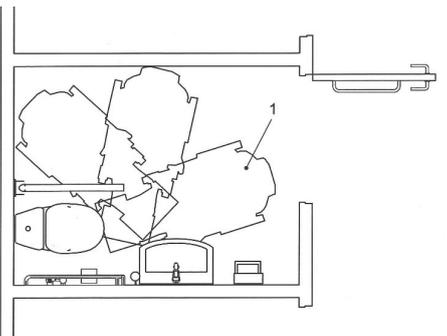
ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>The minimum free clearance beside the toilet seat shall be 900mm; 1200mm is preferred for lateral transfer and assistance.</p> <p>NOTE Minimum clearance of 900 mm accommodates only 65 % of the wheelchair users, clearance of 1200 mm accommodates 90% of all wheelchair users especially also those who use powered wheelchairs.</p> <p>The minimum dimensions for an accessible corner toilet room are 1700 mm width and 2200 mm depth.</p> <p>Exceptional considerations in existing buildings: If the measures given above cannot be achieved due to technical reasons, the manoeuvring space at floor level may be reduced, but it should be recognized that such a reduction limits the number of people who can use these toilet rooms.</p>	<p>便座横の最小限の障害物のない水平スペースは、900mm とする。横方向の移乗と補助には 1200 mm が推奨される。</p> <p>注： 900mm の最小水平スペースは、車椅子利用者の 65% にしか対応しない。1200mm の最小水平スペースは、電動車椅子使用者を含む全ての車椅子利用者の 90% に対応する。</p> <p>バリアフリー対応の片寄せタイプのトイレの最小寸法は、幅 1700mm、奥行き 2200mm とする。</p> <p>既存の建物における例外的な検討事項： 技術的な理由で上記の対策が取れない場合は、床の動作域を縮小することは可能性だが、それによって、これらのトイレが使用可能な者の数が限定されることを認識する必要がある。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.4.2 Type A toilet room with lateral transfer from both sides</p> <p>Characteristics (see Figures 36 and 37):</p> <ul style="list-style-type: none"> - lateral transfer from both sides, - manoeuvring space uninterrupted by washbasin and pan, - independent water supply beside toilet seat, - horizontal grab rails at both sides, - toilet paper dispensers on both folding grab rails.  <p>Dimensions in millimetres</p> <p>Key</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 minimum 800 mm (850 mm recommended) 2 foldable grab rails, both sides 3 washbasin 4 independent water supply <p>Figure 36 - Example of type A toilet room - Lateral transfer from both sides</p>	<p>26.4.2 両側から横方向に移乗する A タイプのトイレ</p> <p>特徴 (図 36 および図 37 を参照) :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 両側からの横方向の移乗、 - 手洗器と便器に遮られることのない動作域、 - 便座横の独立した給水口、 - 両側に設置された水平手すり、 - 両方の可動式手すりに備え付けられたトイレトーパーホルダー。  <p>寸法の単位はミリメートル</p> <p>凡例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 最小 800mm (推奨 850mm) 2 両側に設置された可動式手すり 3 手洗器 4 独立した給水口 <p>図 36 - A タイプのトイレの例 - 両側からの横方向の移乗</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
 <p>key 1 possible transfer positions</p> <p>Figure 37 - Type A toilet room transfer options</p> <p>26.4.3 Type B corner toilet room Characteristics (see Figures 38 and 39):</p> <ul style="list-style-type: none"> -lateral transfer only from one side, - manoeuvring space uninterrupted by washbasin and pan, - independent water supply beside toilet seat, - vertical grab rail beside the toilet seat for getting up and sitting down (slanted grab bars are not preferred), - toilet paper dispenser fixed on the wall beside the toilet seat, - foldable grab rail. 	 <p>凡例 1 可能な移乗位置</p> <p>図 37 - A タイプのトイレの移乗オプション</p> <p>26.4.3 片寄せタイプの B タイプのトイレ 特徴 (図 38 および図 39 を参照) :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 片側のみからの横方向の移乗、 - 手洗器と便器に遮られることのない動作域、 - 便座横の独立した給水口、 - 立ち座りのための便座横の垂直手すり (傾斜した手すりは推奨されない)、 - 便座の横の壁に固定されたトイレットペーパーホルダー、 - 可動式手すり。

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p style="text-align: center;">Dimensions in millimetres</p>  <p>Key 1 foldable grab 2 grab rail on wall 3 independent water supply 4 washbasin</p> <p>Figure 38 - Example of type B large corner toilet room</p>  <p>Key 1 possible transfer positions</p> <p>Figure 39 - Type B toilet room transfer options</p>	<p style="text-align: center;">寸法の単位ミリメートル</p>  <p>凡例 1 可動式手すり 2 壁に設置された手すり 3 独立した給水口 4 手洗器</p> <p>図 38 - 広い片寄せタイプのトイレ、B タイプの例</p>  <p>凡例 1 可能な移乗位置</p> <p>図 39 - B タイプのトイレの移乗オプション</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.4.4 Type C toilet room</p> <p>Characteristics (see Figures 40 and 41):</p> <ul style="list-style-type: none"> -lateral transfer only from one side, - manoeuvring space reduced by washbasin, - independent water supply beside toilet seat, with floor drain where necessary, - ability to reach small wash hand basin when seated on toilet, - horizontal grab rail on wall beside the toilet seat, - vertical grab rail on wall beside the toilet seat for getting up and sitting down (slanted grab bars are not preferred), - foldable grab rail, - toilet paper dispenser fixed on the wall beside the toilet seat. <p style="text-align: right;">Dimensions in millimetres</p>  <p>Key</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 minimum 800 mm (850 mm recommended) 2 foldable grab rail 3 Independent water supply 4 grab rail on wall 5 washbasin <p style="text-align: right;">Figure 40 - Example of type C small corner toilet room</p>	<p>26.4.4 C タイプのトイレ</p> <p>特徴 (図 40 および図 41 を参照) :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 片側のみからの横方向の移乗、 - 手洗器による動作域の減少、 - 便座横に独立した給水口、必要に応じて床排水付き、 - 便器に座ったときに小型の手洗器に手が届くこと、 - 便座横の壁に設置された水平手すり - 立ち座りのための便座横の垂直手すり (傾斜した手すりは推奨されない)、 - 可動式手すり、 - 便座の横の壁に固定されたトイレットペーパーホルダー。 <p style="text-align: right;">寸法の単位はミリメートル</p>  <p>凡例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 最小 800mm (850 mm 推奨) 2 可動式手すり 3 独立した給水口 4 壁に設置された手すり 5 手洗器 <p style="text-align: right;">図 40 - 小型の片寄せタイプのトイレ、c タイプの例</p>

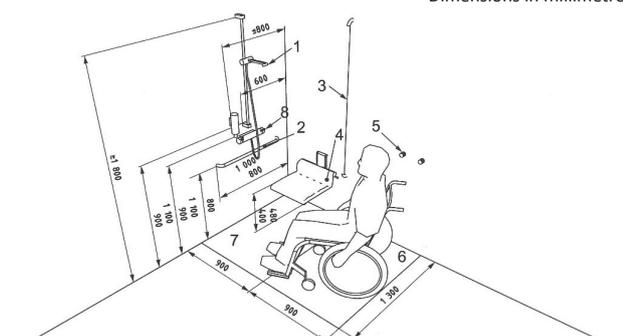
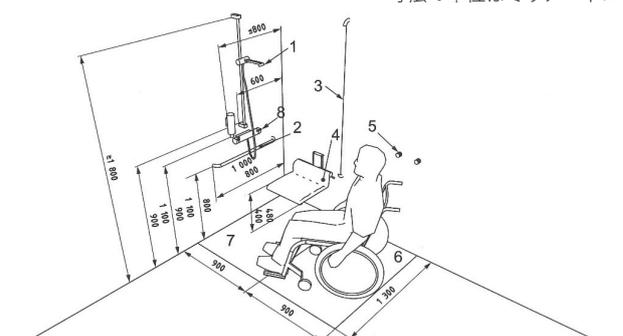
ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
 <p>Key</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 possible transfer positions <p style="text-align: right;">Figure 41 - Type C toilet room transfer options</p> <p>26.5 Toilet room doors</p> <p>Toilet room doors should comply with the specifications indicated in 18.1.</p> <p>The door shall have an unobstructed width of at least 800 mm, with minimum 850 mm as a recommended value, and it shall be easy to open and close. The door should open outwards. If the door opens inwards, there shall be a way to open the door, or remove it, from the outside. There should be no openings under or above the door.</p>	 <p>凡例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 可能な移乗位置 <p style="text-align: right;">図 41 - c タイプのトイレの移乗オプション</p> <p>26.5 トイレの扉</p> <p>トイレの扉は 18.1 に示す仕様に適合しなければならない。</p> <p>扉の有効幅員は少なくとも 800mm で、推奨値は 850mm 以上とする。扉の開閉は、容易でなくてはならない。扉は、外開きであること。扉が内開きの場合は、外側から扉を開く、または外す方法がなくてはならない。扉の下部または上部に開口部があってはならない。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.6 Toilet seat</p> <p>The top of the toilet seat shall be between 400 mm and 480 mm from the floor. The anthropometric differences in the population worldwide may require lower or higher heights of toilet seats.</p> <p>NOTE Toilet seats with a height of more than 460 mm may cause a problem of instability when sitting on the toilet seat. Toilet seats of less than 460 mm may cause a problem of transfer getting back to the wheelchair. National regulations may give the most convenient and appropriate height for an accessible toilet seat at a national level.</p> <p>The minimum distance from the edge of the toilet seat to the rear wall should be between 650mm and 800mm (see Figures 36, 38 and 40).</p> <p>The minimum distance of a corner toilet from the pan to the adjacent wall should be 250mm (see Figure 38). The minimum distance from the centre line of a corner toilet to the adjacent wall should be 450 mm (see Figures 38 and 40).</p> <p>If a backrest is provided, the distance from the seat to the backrest should range between 500mm and 550mm.</p> <p>Toilets for children should have a distance from the centre line to the adjacent wall between 305mm to 380mm. The toilet seat height shall be between 205mm to 380mm.</p>	<p>26.6 便座</p> <p>便座の上端は、床から 400mm から 480mm の間でなければならない。世界の人々の人体測定学的な違いによって、便座を低くまたは高く設定する必要があるかもしれない。</p> <p>注：便座の高さが 460mm を超えると、便座に座ったときに不安定になる問題を引き起こす可能性がある。460mm 未満の便座は、車椅子に戻る際の移乗の問題を引き起こす可能性がある。国内の法規においては、国内規格で、バリアフリー対応の便座を最も便利で適切な高さに設定することは可能である。</p> <p>便座の先端から背面の壁までの最小距離は、650mm から 800mm の間でなければならない (図 36、図 38、および図 40 参照)。</p> <p>片寄せタイプのトイレにおいて、便器から隣接する壁までの最小距離は、250mm (図 38 参照)、片寄せタイプのトイレの中心線から隣接する壁までの最小距離は、450mm (図 38 及び図 40 参照) とする。</p> <p>背もたれがある場合、便座から背もたれまでの距離は 500mm から 550mm の間でなければならない。</p> <p>子供用トイレは、中心線から隣接する壁までの距離が 305 mm から 380 mm の間でなければならない。便座の高さは 205mm から 380mm の間でなければならない。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.16 Shower</p> <p>Showers can be used by people with different disabilities and different supporting aids, for instance, wheelchair users, ambulant disabled people, etc., using their own wheelchairs or special shower chairs.</p> <p>The shower area shall have level entry and have no fixed elements that prevent front and side access.</p> <p>The wet showering area should be 900mm x 1300mm, with a transfer area of also 900mm x 1300mm.</p> <p>The floor in the shower recess shall have a gradient between 1:50 and 1:60 sloping to a floor drain. The area outside the shower recess shall have a gradient between 1:70 and 1:80 draining towards the shower recess. The transition into the shower recess shall be level without a step down or a kerb.</p> <p>The waste outlet should be centrally located and be a round type outlet, not a channel type, to ensure the stability of the shower chair.</p> <p>The shower should be fitted with an easily operable foldable seat that folds in an upward direction. If a foldable seat is provided, its minimum size shall be 450mm x 450mm, and, when folded down, have its top surface set between 400mm and 480mm above floor level and spaced a maximum of 40mm from the rear wall. The fastenings for grab rails and the construction of the foldable</p>	<p>26.26.16 シャワー室</p> <p>シャワー室は、自分の車椅子や特別なシャワー用の椅子を使用して、車椅子利用者や歩行障害者などの様々な障害および補助器具を伴う者によって利用が可能である。</p> <p>シャワーエリアへは段差のない入口でなければならない。また、正面および側面からのアクセスを妨げるような固定要素があってはならない。</p> <p>シャワー室の洗い場は 900mm x 1300mm とし、900mm x 1300mm の移乗スペースを伴うものとする。</p> <p>シャワー室の床は、1/50 から 1/60 の間の排水勾配を持ち、排水溝に向かって傾斜していなければならない。シャワー室の外側のエリアでは、シャワー室に向かって 1/70 から 1/80 の排水勾配が必要である。シャワー室への移行は、段差や縁のない水平面でなければならない。</p> <p>シャワー用椅子の安定性を確保するために、排水口は中央に配置し、溝型ではなく丸型とする。</p> <p>シャワー室には、容易に操作可能な跳ね上げ式の椅子が備えられていなければならない。跳ね上げ式の椅子が備わっている場合、その最小サイズは 450mm x 450mm とし、折り畳まれている時の上端は床から 400mm から 480mm の間に設定され、背面の壁との隙間は 40mm 以下とする。手すりの固定金物および跳ね上げ式の椅子の構造は、あらゆる</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>seat shall be able to withstand a force of 1,1 kN applied at any position and in any direction.</p> <p>NOTE Shower wheelchairs are sometimes used instead of shower seats.</p> <p>The foldable seat shall have the following features:</p> <ul style="list-style-type: none"> - self-draining; - slip-resistant and stable; - foldable in an upwards direction; when folded, it shall not present a hazard and the grab rail shall be accessible from the foldable seat. <p>The foldable seat should have the following features:</p> <ul style="list-style-type: none"> - rounded front corners (radius 10mm to 15mm), - rounded top edges (minimum radius of 2mm to 3mm). <p>The foldable seat should preferably be height adjustable.</p> <p>Grab rails shall be set according to 26.7 and Figure 45. The shower area shall be fitted with at least one vertical grab rail which may hold the flexible shower head. The length of the flexible shower hose shall be a minimum 1200 mm. The handheld shower head should be provided between 1000mm and 1800mm above the finished floor. The shower hose fitting should be a minimum 1300 mm above floor level.</p>	<p>位置および方向において、1.1 kN の力に耐えることができないかもしれない。</p> <p>注： シャワー用椅子の代わりにシャワー用車椅子が使用されることがある。</p> <p>跳ね上げ式の椅子には、以下の特徴が備わっていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 水がたまらない、 - 滑りにくく安定している、 - 上方向に跳ね上げ可能で、折り畳んだときに危険ではなく、手すりは、跳ね上げ式の椅子からアクセスできなければならない。 <p>跳ね上げ式の椅子には、次の機能が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 丸みを帯びた前面の出隅（半径 10mm から 15mm）、 - 丸みを帯びた上部（最小半径 2 mm から 3 mm）。 <p>跳ね上げ式の椅子は、高さ調整が可能であることが好ましい。</p> <p>手すりは、26.7 と図 45 に従って設置されなければならない。シャワー室には、可動式シャワーヘッドを固定することも可能な垂直のバーが、少なくとも 1 つ取り付けられていること。柔軟なシャワーホースの長さは、1200mm 以上とする。ハンドシャワーのシャワーヘッドは、床仕上げから 1000mm から 1800 mm 上に設置すること。シャワーフックは、床面から 1300mm 以上離すこと。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>Shower controls and folding seat shall be set according to Figure 45.</p> <p>If the shower is combined with an accessible toilet, the manoeuvring areas may overlap, as shown in Figure 46.</p> <p>If two or more shower recesses are provided, at least one shall have the seat on the opposite side.</p>	<p>シャワーの制御器と跳ね上げ式の椅子は、図 45 に適合するように設置すること。</p> <p>シャワーがバリアフリー対応のトイレと組み合わされている場合、図 46 に示すように、動作域が重なってもよい。</p> <p>2 以上のシャワー室を設ける場合は、少なくとも 1 つは反対側に椅子を設けなければならない。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)																		
<p style="text-align: right;">Dimensions in millimetres</p>  <p>Key</p> <table border="0"> <tr> <td>1 hand-held shower head</td> <td>5 towel hooks</td> </tr> <tr> <td>2 horizontal grab rail</td> <td>6 transfer area</td> </tr> <tr> <td>3 vertical grab rail</td> <td>7 wet showering area with gradient</td> </tr> <tr> <td>4 foldable shower seat</td> <td>1:50 - 1:60</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8 shower controls</td> </tr> </table> <p>Figure 45 - Example of a shower place with grab rails, adjustable shower head and folding seat</p>	1 hand-held shower head	5 towel hooks	2 horizontal grab rail	6 transfer area	3 vertical grab rail	7 wet showering area with gradient	4 foldable shower seat	1:50 - 1:60		8 shower controls	<p style="text-align: right;">寸法の単位はミリメートル</p>  <p>凡例</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ハンドシャワーのシャワーヘッド</td> <td>5 タオル掛け</td> </tr> <tr> <td>2 水平手すり</td> <td>6 移乗スペース</td> </tr> <tr> <td>3 垂直手すり</td> <td>7 1/50 から 1/60 の勾配のついた洗い場</td> </tr> <tr> <td>4 跳ね上げ式シャワー用イス</td> <td>8 シャワー制御装置</td> </tr> </table> <p>図 45 - 手すり、高さ調節が可能なシャワーヘッド、および跳ね上げ式の椅子が備わったシャワースペースの例</p>	1 ハンドシャワーのシャワーヘッド	5 タオル掛け	2 水平手すり	6 移乗スペース	3 垂直手すり	7 1/50 から 1/60 の勾配のついた洗い場	4 跳ね上げ式シャワー用イス	8 シャワー制御装置
1 hand-held shower head	5 towel hooks																		
2 horizontal grab rail	6 transfer area																		
3 vertical grab rail	7 wet showering area with gradient																		
4 foldable shower seat	1:50 - 1:60																		
	8 shower controls																		
1 ハンドシャワーのシャワーヘッド	5 タオル掛け																		
2 水平手すり	6 移乗スペース																		
3 垂直手すり	7 1/50 から 1/60 の勾配のついた洗い場																		
4 跳ね上げ式シャワー用イス	8 シャワー制御装置																		

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>26.17 Individual shower room</p> <p>A free space at least 1300 mm × 900mm shall be provided on the clear side of the foldable seat, to allow access from a wheelchair, in addition to the manoeuvring space of 1500mm.</p> <p>The screening of a shower recess shall be either a curtain or a door system that maintains the required circulation and manoeuvring space and does not interfere with the level entry.</p> <p>A shower head support grab rail shall be fixed on the wall in the position shown in Figure 45.</p> <p>A hand held detachable shower head shall be provided with a flexible hose of minimum length 1200mm, and it shall be able to reach within 100mm of the shower floor.</p> <p>An adjustable shower head holder shall be provided to support the shower head, and shall:</p> <ul style="list-style-type: none"> - be installed on the shower head holder support grab rail as shown in Figure 45, - allow the graspable portion of the shower head to be positioned at various angles and heights, - allow the graspable portion of the shower head to be located at heights between 1000 mm and 1800mm above the finished floor. 	<p>26.17 個々のシャワー室</p> <p>跳ね上げ式椅子の障害物のない側には、1500mm の動作域に加えて、車椅子からのアクセスを可能にする、少なくとも 1300mm × 900mm のスペースを確保する必要がある。</p> <p>シャワー室の目隠しは、必要な動線と動作域を維持し、段差のない入室を妨げないカーテンまたは扉設備のいずれかでなければならない。</p> <p>シャワーヘッドを支持するバーは、図 45 に示す位置で壁に固定されなければならない。</p> <p>ハンドシャワーの脱着式シャワーヘッドは、長さ 1200mm 以上の柔軟なホースを備えていなければならない、それはシャワーの床面から 100mm 以内の範囲に達することができなければならない。</p> <p>高さ調節が可能なシャワーヘッドホルダーは、シャワーヘッドを支持するために設置されなければならない。また、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 図 45 に示すように、シャワーヘッドホルダー用のバーに取り付けること。 - シャワーヘッドの握りの部分を様々な角度と高さに配置できるようにすること。 - シャワーヘッドの握りの部分が、床仕上げから 1000mm から 1800mm の高さに位置するようにすること。

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>The fastenings, materials and construction of the seat shall withstand a force of 1,1 kN applied at any position and in any direction.</p> <p>Grab rails shall be fixed on the walls in the positions shown in Figure 45. All other devices, e.g. taps, soap holder, shall be situated in an accessible range between 900mm to 1100mm.</p> <p>26.18 Bathrooms</p> <p>This subclause applies to buildings that provide bathing facilities, such as hotels, motels, hostels and sports buildings, where baths may be an alternative, or a supplement to showers (see Figures 46 to 49 as examples).</p> <p>If only one accessible bedroom for people with disabilities is provided, it should be connected to an accessible shower room, rather than a bathroom, since many disabled people can only use a shower, due to their physical limitations. If more than one accessible bedroom is provided, a choice of shower or bath and a choice of right or left hand transfer to the toilet and shower or bath should be provided.</p> <p>All accessible bathrooms should always contain an accessible toilet.</p> <p>En suite facilities should be chosen as the preferred solution for accessible bedrooms, even when they are not provided generally for guests or residents in a hotel, motel or nursing home. If this is not possible, bathroom</p>	<p>椅子の固定金物、材料および構造は、あらゆる位置および方向において 1.1 kN の力に耐えることができないなければならない。</p> <p>手すりは、図 45 に示す位置で壁に固定しなければならない。水栓、石鹸ホルダーなどの他の全ての設備・備品は、900mm から 1100mm の間のアクセス可能な範囲に配置されなければならない。</p> <p>26.18 浴室</p> <p>この項は、ホテル、モーテル、ホステル、スポーツ施設などの入浴施設で、浴槽を代替手段またはシャワーの補足として、提供する建物に適用される (図 46～49 図の例参照)。</p> <p>障害者用のバリアフリー対応の寝室が 1 つしかない場合は、多くの障害者は身体的な制約のためにシャワーしか使用できないため、浴室ではなくバリアフリー対応のシャワー室につなげる必要がある。バリアフリー対応の寝室が複数ある場合は、シャワーまたは浴槽の選択肢、およびトイレ、シャワーまたは浴槽への右側または左側からの移乗の選択肢を提供する必要がある。</p> <p>バリアフリー対応の全ての浴室には、必ずバリアフリー対応のトイレが必要である。</p> <p>ホテル、モーテル、または高齢者福祉施設の宿泊客または居住者に一般的に提供されていない場合でも、バリアフリー対応の寝室には浴室と一体化した設備を提供することが推奨される。それが不可能な場合は、バリアフリー対応の寝室に近接した浴室を用意する必要がある。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>accommodation should be provided in close proximity to the accessible bedrooms.</p> <p>The minimum overall dimensions of a bathroom intended principally for independent use, incorporating a corner toilet and a large basin, should be as shown in Figures 46, 48 and 49.</p> <p>In bathrooms with a toilet that is intended for independent use, the direction of transfer to both the bath and toilet should be consistent.</p> <p>When more than one bathroom for independent use incorporating a corner toilet is planned, a choice of left hand and right hand transfer layouts should be provided.</p> <p>Auxiliary grab rails should be located in accordance with Figure 47.</p> <p>Exceptional considerations in existing buildings: If the measures given above cannot be achieved due to technical reasons, the manoeuvring space at floor level may be reduced to a minimum clearance besides the toilet seat of 800mm x 1200 mm and a clear manoeuvring space diameter of 1200 mm. However, it should be recognized that such a reduction may limit the use to wheelchair users with small chairs.</p> <p>NOTE To make a bathtub accessible for users of a bath lift or hoist, a free unobstructed space under the bathtub is needed.</p>	<p>片寄せタイプのトイレと大型の手洗器を組み込んだ、主に補助を伴わない使用を目的とした浴室の最小の全体寸法は、図 46、図 48、および図 49 に示すとおりとする。</p> <p>補助を伴わない使用を目的としたトイレ付きの浴室では、浴槽とトイレの両方への移乗の方向は一貫している必要がある。</p> <p>片寄せタイプのトイレを組み込んだ、補助を伴わない使用のための浴室が複数計画されている場合は、右側または左側からの移乗に適したレイアウトの選択肢を提供する必要がある。</p> <p>補助手すりは、図 47 に従って配置する必要がある。</p> <p>既存の建物における例外的な検討事項: 技術的な理由で上記の対策がとれない場合は、便座横の床面の動作域を最小 800mm x 1200 mm に、また障害物のない水平スペースを直径 1200mm に縮小することが可能である。しかしながら、そのような縮小によって、小型車椅子の利用者に使用が制限されてしまうかもしれないことを認識する必要がある。</p> <p>注: 入浴リフトやホイスト利用者が浴槽にアクセスできるように、浴槽の下に障害物のないスペースが必要である。</p>

ISO21542 (英語)

Dimensions in millimetres

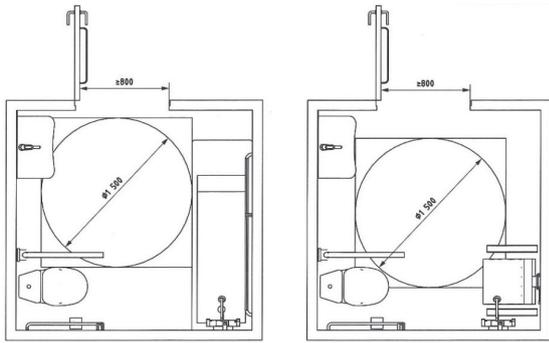


Figure 46 - Examples of a bathroom with bathtub and shower for independent use with a corner WC

ISO21542 (日本語訳)

寸法の単位はミリメートル

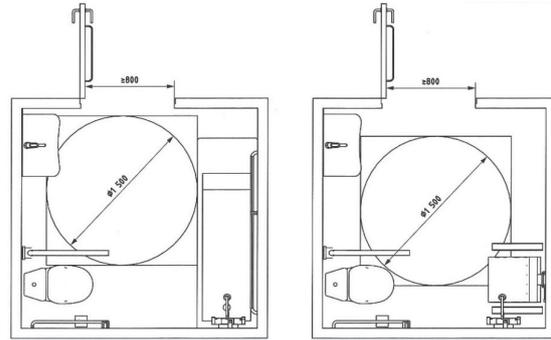
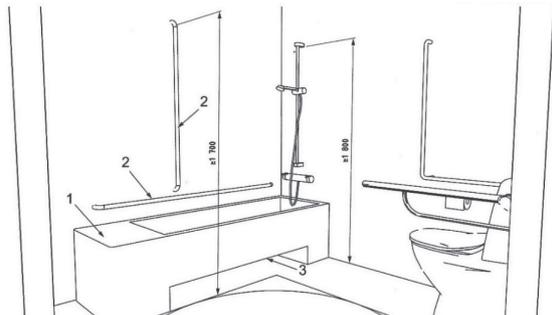


図 46 - 片寄せタイプのトイレおよび補助を伴わない使用のための浴槽とシャワーが付いた浴室の例

ISO21542 (英語)

Dimensions in millimetres



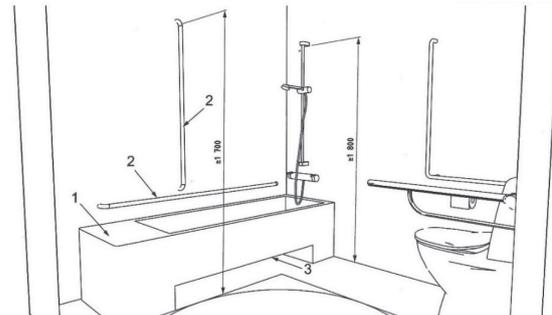
Key

- 1 transfer area
- 2 grab rail
- 3 opening for hoist

Figure 47 - Example of grab rails and transfer facilities surrounding the bathtub

ISO21542 (日本語訳)

寸法の単位はミリメートル



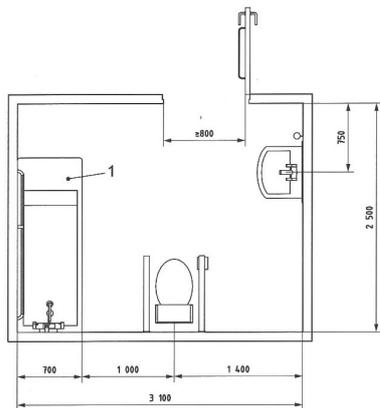
凡例

- 1 移乗スペース
- 2 手すり
- 3 ホイストのための開口部

図 47 - バスタブ周りの手すりや移乗設備の例

ISO21542 (英語)

Dimensions in millimetres



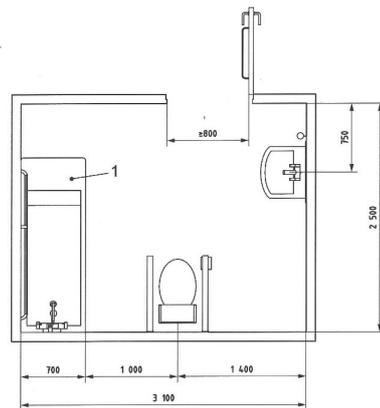
Key

1 transfer area

Figure 48 - Example of a bathroom for assisted use of bathtub and peninsular WC

ISO21542 (日本語訳)

寸法の単位はミリメートル



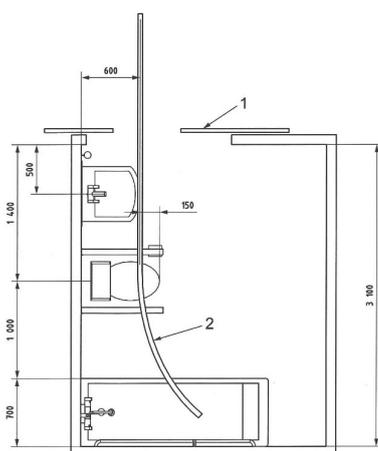
凡例

1 移乗スペース

図 48 - 補助を伴う浴槽の使用のための浴室および半島式便器の例

ISO21542 (英語)

Dimensions in millimetres



Key

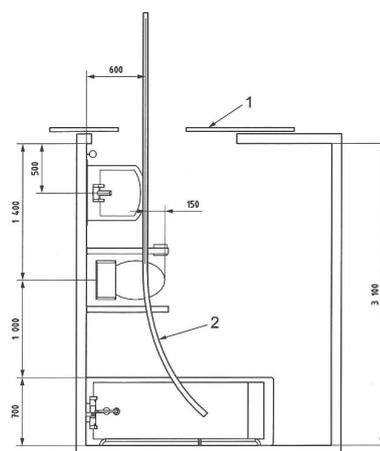
1 unequal sliding doors

2 ceiling mounted track hoist

Figure 49 - Example of a bathroom with a ceiling mounted tracked hoist for independent or assisted use

ISO21542 (日本語訳)

寸法の単位はミリメートル



凡例

1 親子引き扉

2 天井に取り付けられた入浴用ホイストのトラック

図 49 - 天井に取り付けられた入浴用ホイストのトラックが付いた、補助を伴わない使用または援助を伴う使用のため浴室の例

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>27 Accessible bedrooms in non-domestic buildings</p> <p>The access to accessible bedrooms in non-domestic buildings (i.e. hotels, guesthouses, etc.) shall comply with the requirements outlined in this International Standard, in particular with Clauses 4 and 5. The minimum number of accessible bedrooms in non-domestic buildings may be subject to national requirements or regulations. At least one accessible bedroom should be provided for every twenty standard bedrooms or fraction.</p> <p>Rooms accessible for wheelchair users shall be designed for two beds. If a single bedroom accessible for wheelchair users is provided, a queensize bed is preferred, 1500mm width x 2000mm length.</p> <p>Free space on at least one of the long sides of the bed shall be provided. This space should be 1500mm, and shall not be less than 1200mm. At the foot of the bed, at least 1200mm is required (see Figures 50 and 51).</p> <p>An open space of at least 300mm between the floor and the mattress should be provided to facilitate the use of a hoist.</p> <p>Sufficient clear manoeuvring space is needed to gain access to facilities, including the shower.</p> <p>There should be a bench for luggage at a height between 450mm to 650mm.</p>	<p>27 住居以外の建物におけるバリアフリー対応のベッドルーム</p> <p>住居以外の建物（ホテル、ゲストハウスなど）におけるバリアフリー対応の寝室へのアクセスは、この国際標準、特に第4条および第5条に概説されている要件に適合しなければならない。住居以外の建物におけるバリアフリー対応の寝室の最小数は、国内の必要条件または法規によって異なる可能性がある。20の標準的な寝室またはその端数ごとに、少なくとも1つのバリアフリー対応の寝室を設置する必要がある。</p> <p>車椅子利用者用の客室は、2台のベッド用に設計します。車椅子利用者が利用できるシングルベッドルームがある場合は、クイーンサイズベッド（幅1500mm×長さ2000mm）を推奨する。</p> <p>ベッドの少なくとも一方の長辺側に、障害物のないスペースを設けなければならない。このスペースは1500mmとし、1200mmを下回ってはならない。ベッドの足下側には、少なくとも1200mmが必要である（図50および図51参照）。</p> <p>ホイストの使用を容易にするために、床とマットレスの間に少なくとも300mmの開口部が必要である。</p> <p>シャワー室を含む設備へのアクセスを確保するために十分な障害物のない動作域が必要とされる。</p> <p>450mm から 650mm の高さの荷物用のベンチを設置しなければならない。</p>

ISO21542 (英語)	ISO21542 (日本語訳)
<p>The minimum height of a bed shall be between 450mm to 500mm ,when it is compressed under a 90 kg weight.</p> <p>For communication for people with hearing, vision and cognitive limitations, see Clause 32 and Annex B.</p> <p>Visual and audible alarm systems shall be accessible to warn people with visual and hearing impairments; consider Clause 34 for fire emergency warnings.</p> <p>Consider Figures 46 to 49 for details of an accessible bathroom. Manoeuvring space of a minimum 1500mm x 1500mm allows front of facing or 45° oblique transfers by wheelchair users.</p>	<p>ベッドの最小高さは、90 kg の重さで圧縮されている状態で、450mm から 500mm の間とする。</p> <p>聴覚障害、視覚障害、および認知障害を持つ人とのコミュニケーションに関しては、第32条および添付書類Bを参照のこと。</p> <p>視覚および可聴警報システムは、視覚障害および聴覚障害を持つ人のための警告として提供されなければならない。緊急火災警報に関しては、第34条を検討すること。</p> <p>バリアフリー対応の浴室の詳細に関しては、図46～図49を参照のこと。1500mm x 1500mm の最小動作空間は、車椅子利用者による正面からまたは45°の斜め移乗を可能にする。</p>

ISO21542 (英語)

Dimensions in millimetres

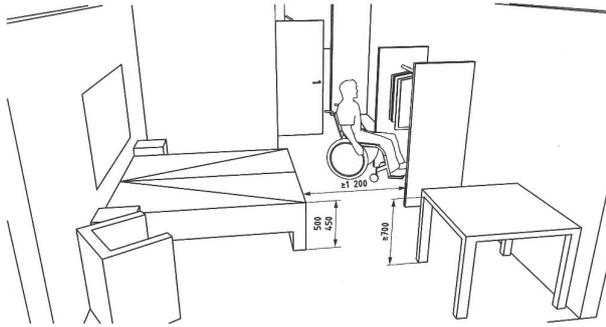
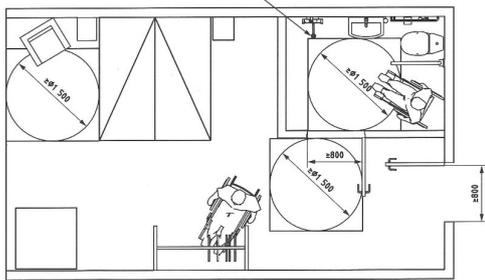


Figure 50 – Example of space allowances for accessible bedroom

Dimensions in millimetres



Key

1 shower area

Figure 51 – Example of space allowances for accessible bedroom and bathroom

ISO21542 (日本語訳)

寸法の単位はミリメートル

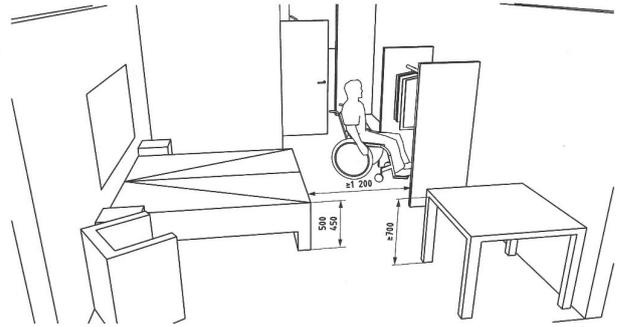
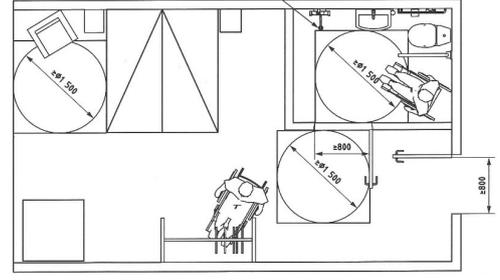


図 50 - バリアフリー対応の寝室のための空間配置の例

寸法の単位はミリメートル



凡例

1 シャワーエリア

図 51 - バリアフリー対応の寝室および浴室のための空間配置の例

2010 ADA Standards for Accessible Design Department of Justice September 15, 2010
(2010年版 アクセス可能なデザインのための ADA 基準 米国司法省 2010年9月15日)

- 障害を持つアメリカ人法（Americans with Disabilities Act：ADA）は、1990年に成立、2008年に改正（2009年1月1日より施行）された。障害を持つアメリカ人法は、アメリカにおける最も包括的な公民権法の1つであり、障害者の差別禁止、及び障害者が他者と同じくアメリカでの生活を営むことができる機会を保障するものである。
- アクセス可能なデザインのための ADA 基準（ADA Standards for Accessible Design）は、ADA に基づく基準であり、2010年に策定（1991年版を改定）されたものである。
- 州および地方自治体の施設、公共施設及び商業施設は、ADA 基準（ADA Standards for Accessible Design）の要件に従う必要がある。
- 以下に、客室及びホテル又は旅館等に関連する内容の抜粋を示す。

参考 平成 25 年度障害者権利条約の国内モニタリングに関する国際調査報告書 8. アメリカの障害者政策とモニタリングの枠組み 8-1 アメリカにおける障害者政策の枠組み

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h25kokusai/index.html>

平成 27 年度合理的配慮提供に際しての合意形成プロセスと調整に関する国際調査報告書 報告書本編 2.アメリカにおける合理的配慮提供に際しての合意形成プロセス 2-1ADA 制定の背景及び ADA の概要

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h27kokusai/index-w.html>

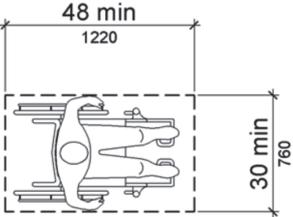
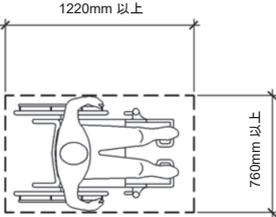
ADA 基準（英語）	ADA 基準（日本語訳）
<p>CHAPTER 2: SCOPING REQUIREMENTS</p> <p>224 Transient Lodging Guest Rooms</p> <p>224.1 General. Transient lodging facilities shall provide guest rooms in accordance with 224.</p> <p>[See additional requirements for places of lodging at 28 CFR 36.406(c), p. 28, and for housing at a place of education at 28 CFR 35.151(f), p. 11, and 28 CFR 36.406(e), p. 29.]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Advisory 224.1 General. Certain facilities used for transient lodging, including time shares, dormitories, and town homes may be covered by both these requirements and the Fair Housing Amendments Act. The Fair Housing Amendments Act requires that certain residential structures having four or more multi-family dwelling units, regardless of whether they are privately owned or federally assisted, include certain features of accessible and adaptable design according to guidelines established by the U.S. Department of Housing and Urban Development (HUD). This law and the appropriate regulations should be consulted before proceeding with the design and construction of residential housing.</p> </div> <p>224.1.1 Alterations. Where guest rooms are altered or added, the requirements of 224 shall apply only to the guest rooms being altered or added until the number of guest rooms complies with the minimum number required for new construction.</p>	<p>第 2 章：適用範囲</p> <p>224 一時的な宿泊のための施設の客室</p> <p>224.1 一般 一時的な宿泊のための施設では、224 条に従って客室を提供しなければならない。</p> <p>[宿泊施設の追加要件に関しては、連邦規則 28 卷 36 条 406 項 c（28 頁）を、教育施設における宿舍の追加要件に関しては、連邦規則 28 卷 35 条 151 項 f（11 頁）および連邦規則 28 卷 36 条 406 項 e（29 頁）を参照のこと。]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>勧告 224.1 一般 タイムシェア、寮、タウンホームを含む一時的な宿泊のための施設に使用される特定の施設は、これらの要件と公正住宅改正法の両方が適用される可能性がある。公正住宅改正法では、4 戸以上の住居を持つ特定の集合住宅は、個人所有であるか、連邦政府による支援を受けているかにかかわらず、米国住宅都市開発省（HUD）によって設定されたガイドラインに従って、バリアフリーで順応性の高い設計要素を備えていることを要求される。この法律および関連規則は、住宅の設計および施工を始める前に考慮する必要がある。</p> </div> <p>224.1.1 改修 客室が改修または増築される場合、224 条の要件は、客室数が新築に必要な最小数になるまでは、改修または増築される客室のみに適用される。</p>

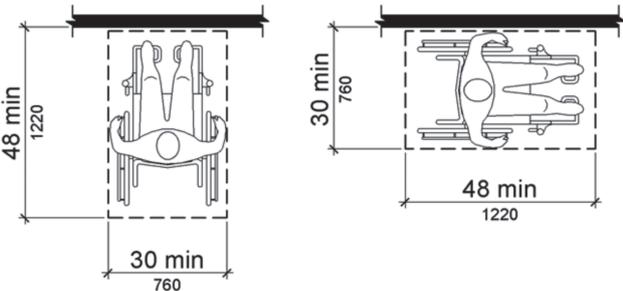
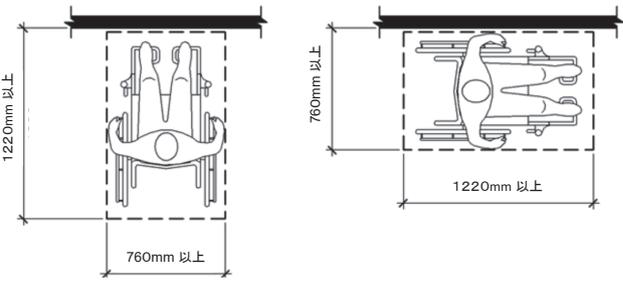
ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>Advisory 224.1.1 Alterations. In alterations and additions, the minimum required number of accessible guest rooms is based on the total number of guest rooms altered or added instead of the total number of guest rooms provided in a facility. Typically, each alteration of a facility is limited to a particular portion of the facility. When accessible guest rooms are added as a result of subsequent alterations, compliance with 224.5 (Dispersion) is more likely to be achieved if all of the accessible guest rooms are not provided in the same area of the facility.</p> <p>224.1.2 Guest Room Doors and Doorways. Entrances, doors, and doorways providing user passage into and within guest rooms that are not required to provide mobility features complying with 806.2 shall comply with 404.2.3.</p> <p>EXCEPTION: Shower and sauna doors in guest rooms that are not required to provide mobility features complying with 806.2 shall not be required to comply with 404.2.3.</p> <p>Advisory 224.1.2 Guest Room Doors and Doorways. Because of the social interaction that often occurs in lodging facilities, an accessible clear opening width is required for doors and doorways to and within all guest rooms, including those not required to be accessible. This applies to all doors, including bathroom doors, that allow full user passage. Other requirements for doors and doorways in Section 404 do not apply to guest rooms not required to provide mobility features.</p>	<p>勧告 224.1.1 改修 改修および増築において、バリアフリー対応の客室の最小必要数は、施設内に提供される客室の総数ではなく、改修または増築される客室の総数に基づく。通常、施設の各改修は、施設の特定の部分に限定される。その後の改修によってバリアフリー対応の客室が追加される場合、全てのバリアフリー対応の客室が施設内の同じエリアに配置されていないことにより、224.5 項 (分散) への適合が達成される可能性が高くなる。</p> <p>224.1.2 客室の扉および扉開口部 806.2 項に適合したバリアフリー機能を備える必要のない客室への、および客室内での通路を利用者に提供する入口、扉、および扉開口部は、404.2.3 号に適合しなければならない。</p> <p>適用除外: 806.2 項に適合したバリアフリー機能を備える必要のない客室のシャワーおよびサウナの扉は、404.2.3 号に適合する必要はない。</p> <p>勧告 224.1.2 客室の扉および扉開口部 宿泊施設でしばしば起こる社会的交流のために、バリアフリーであること必要としない客室も含めて、全ての客室への、および客室内での扉および扉開口部においてバリアフリー対応の有効開口幅員が要求される。これは、利用者が完全に通過することが必要な浴室の扉を含む、全ての扉に適用される。404 条の扉および扉開口部に関するその他の要件は、バリアフリー機能を備える必要がない客室には適用されない。</p>

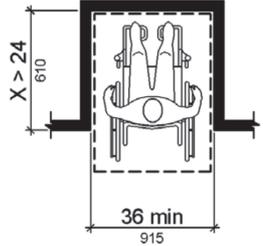
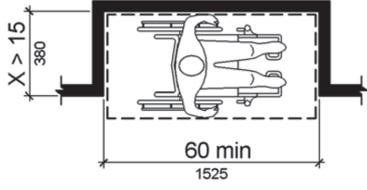
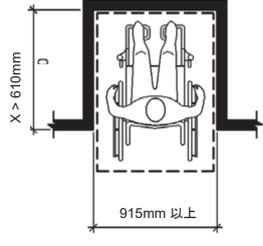
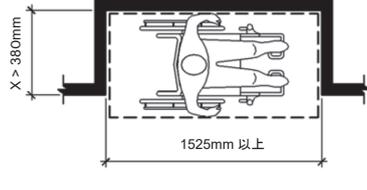
ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)																																																																																																
<p>224.2 Guest Rooms with Mobility Features. In transient lodging facilities, guest rooms with mobility features complying with 806.2 shall be provided in accordance with Table 224.2.</p> <p style="text-align: center;">Table 224.2 Guest Rooms with Mobility Features</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">Total Number of Guest Rooms Provided</th> <th style="text-align: center;">Minimum Number of Required Rooms Without Roll-in Showers</th> <th style="text-align: center;">Minimum Number of Required Rooms With Roll-in Showers</th> <th style="text-align: center;">Total Number of Required Rooms</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">1 to 25</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: center;">1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26 to 50</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">51 to 75</td><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">76 to 100</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">5</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">101 to 150</td><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">7</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">151 to 200</td><td style="text-align: center;">6</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">8</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">201 to 300</td><td style="text-align: center;">7</td><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">10</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">301 to 400</td><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">401 to 500</td><td style="text-align: center;">9</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">13</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">501 to 1000</td><td style="text-align: center;">2 percent of total</td><td style="text-align: center;">1 percent of total</td><td style="text-align: center;">3 percent of total</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1001 and over</td><td style="text-align: center;">20, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000</td><td style="text-align: center;">10, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000</td><td style="text-align: center;">30, plus 2 for each 100, or fraction thereof, over 1000</td></tr> </tbody> </table>	Total Number of Guest Rooms Provided	Minimum Number of Required Rooms Without Roll-in Showers	Minimum Number of Required Rooms With Roll-in Showers	Total Number of Required Rooms	1 to 25	1	0	1	26 to 50	2	0	2	51 to 75	3	1	4	76 to 100	4	1	5	101 to 150	5	2	7	151 to 200	6	2	8	201 to 300	7	3	10	301 to 400	8	4	12	401 to 500	9	4	13	501 to 1000	2 percent of total	1 percent of total	3 percent of total	1001 and over	20, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000	10, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000	30, plus 2 for each 100, or fraction thereof, over 1000	<p>224.2 バリアフリー機能を備えた客室 一時的な宿泊のための施設では、806.2 項に適合するバリアフリー機能を備えた客室は、表 224.2 に従って提供されなければならない。</p> <p style="text-align: center;">表 224.2 バリアフリー機能を備えた客室</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">提供される客室の総数</th> <th style="text-align: center;">車椅子使用者用シャワー室のないバリアフリー対応客室の必要最小数</th> <th style="text-align: center;">車椅子使用者用シャワー室のあるバリアフリー対応客室の必要最小数</th> <th style="text-align: center;">バリアフリー対応の客室の総数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">1~25</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: center;">1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26~50</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">51~75</td><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">76~100</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">5</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">101~150</td><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">7</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">151~200</td><td style="text-align: center;">6</td><td style="text-align: center;">2</td><td style="text-align: center;">8</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">201~300</td><td style="text-align: center;">7</td><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">10</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">301~400</td><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">401~500</td><td style="text-align: center;">9</td><td style="text-align: center;">4</td><td style="text-align: center;">13</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">501~1000</td><td style="text-align: center;">全体の 2%</td><td style="text-align: center;">全体の 1%</td><td style="text-align: center;">全体の 3%</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1001 以上</td><td style="text-align: center;">20 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加</td><td style="text-align: center;">10 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加</td><td style="text-align: center;">30 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 2 を追加</td></tr> </tbody> </table>	提供される客室の総数	車椅子使用者用シャワー室のないバリアフリー対応客室の必要最小数	車椅子使用者用シャワー室のあるバリアフリー対応客室の必要最小数	バリアフリー対応の客室の総数	1~25	1	0	1	26~50	2	0	2	51~75	3	1	4	76~100	4	1	5	101~150	5	2	7	151~200	6	2	8	201~300	7	3	10	301~400	8	4	12	401~500	9	4	13	501~1000	全体の 2%	全体の 1%	全体の 3%	1001 以上	20 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加	10 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加	30 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 2 を追加
Total Number of Guest Rooms Provided	Minimum Number of Required Rooms Without Roll-in Showers	Minimum Number of Required Rooms With Roll-in Showers	Total Number of Required Rooms																																																																																														
1 to 25	1	0	1																																																																																														
26 to 50	2	0	2																																																																																														
51 to 75	3	1	4																																																																																														
76 to 100	4	1	5																																																																																														
101 to 150	5	2	7																																																																																														
151 to 200	6	2	8																																																																																														
201 to 300	7	3	10																																																																																														
301 to 400	8	4	12																																																																																														
401 to 500	9	4	13																																																																																														
501 to 1000	2 percent of total	1 percent of total	3 percent of total																																																																																														
1001 and over	20, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000	10, plus 1 for each 100, or fraction thereof, over 1000	30, plus 2 for each 100, or fraction thereof, over 1000																																																																																														
提供される客室の総数	車椅子使用者用シャワー室のないバリアフリー対応客室の必要最小数	車椅子使用者用シャワー室のあるバリアフリー対応客室の必要最小数	バリアフリー対応の客室の総数																																																																																														
1~25	1	0	1																																																																																														
26~50	2	0	2																																																																																														
51~75	3	1	4																																																																																														
76~100	4	1	5																																																																																														
101~150	5	2	7																																																																																														
151~200	6	2	8																																																																																														
201~300	7	3	10																																																																																														
301~400	8	4	12																																																																																														
401~500	9	4	13																																																																																														
501~1000	全体の 2%	全体の 1%	全体の 3%																																																																																														
1001 以上	20 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加	10 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 1 を追加	30 に加えて、1000 を 100 または 100 以下の端数で超えるごとに 2 を追加																																																																																														

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)																																																
<p>224.3 Beds. In guest rooms having more than 25 beds, 5 percent minimum of the beds shall have clear floor space complying with 806.2.3.</p> <p>224.4 Guest Rooms with Communication Features. In transient lodging facilities, guest rooms with communication features complying with 806.3 shall be provided in accordance with Table 224.4.</p> <p style="text-align: center;">Table 224.4 Guest Rooms with Communication Features</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">Total Number of Guest Rooms Provided</th> <th style="text-align: center;">Minimum Number of Required Guest Rooms With Communication Features</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">2 to 25</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26 to 50</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">51 to 75</td><td style="text-align: center;">7</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">76 to 100</td><td style="text-align: center;">9</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">101 to 150</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">151 to 200</td><td style="text-align: center;">14</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">201 to 300</td><td style="text-align: center;">17</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">301 to 400</td><td style="text-align: center;">20</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">401 to 500</td><td style="text-align: center;">22</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">501 to 1000</td><td style="text-align: center;">5 percent of total</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1001 and over</td><td style="text-align: center;">50, plus 3 for each 100 over 1000</td></tr> </tbody> </table> <p>224.5 Dispersion. Guest rooms required to provide mobility features complying with 806.2 and guest rooms required to provide communication features complying with 806.3 shall be dispersed among the various classes of guest</p>	Total Number of Guest Rooms Provided	Minimum Number of Required Guest Rooms With Communication Features	2 to 25	2	26 to 50	4	51 to 75	7	76 to 100	9	101 to 150	12	151 to 200	14	201 to 300	17	301 to 400	20	401 to 500	22	501 to 1000	5 percent of total	1001 and over	50, plus 3 for each 100 over 1000	<p>224.3 ベッド 25 を超えるベッドを備えた客室では、最低 5 パーセントのベッドが 806.2.3 号に適合する有効床面積を有するものとする。</p> <p>224.4 通信機能を備えた客室 一時的な宿泊のための施設において、806.3 に適合する通信機能を備えた客室は、表 224.4 に従って提供されなければならない。</p> <p style="text-align: center;">表 224.4 通信機能を備えた客室</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">提供される客室の総数</th> <th style="text-align: center;">通信機能付きのバリアフリー対応客室の必要最小数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">2～25</td><td style="text-align: center;">2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">26～50</td><td style="text-align: center;">4</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">51～75</td><td style="text-align: center;">7</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">76～100</td><td style="text-align: center;">9</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">101～150</td><td style="text-align: center;">12</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">151～200</td><td style="text-align: center;">14</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">201～300</td><td style="text-align: center;">17</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">301～400</td><td style="text-align: center;">20</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">401～500</td><td style="text-align: center;">22</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">501～1000</td><td style="text-align: center;">全体の 5%</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1001 以上</td><td style="text-align: center;">50 に加えて、1000 を 100 超えるごとに 3 を追加</td></tr> </tbody> </table> <p>224.5 分散 806.2 項に適合したバリアフリー機能を提供することが必要な客室、および 806.3 項に適合した通信機能を提供することが必要な客室は、様々な客室等級に分散され、他の宿泊客に提供される選択肢</p>	提供される客室の総数	通信機能付きのバリアフリー対応客室の必要最小数	2～25	2	26～50	4	51～75	7	76～100	9	101～150	12	151～200	14	201～300	17	301～400	20	401～500	22	501～1000	全体の 5%	1001 以上	50 に加えて、1000 を 100 超えるごとに 3 を追加
Total Number of Guest Rooms Provided	Minimum Number of Required Guest Rooms With Communication Features																																																
2 to 25	2																																																
26 to 50	4																																																
51 to 75	7																																																
76 to 100	9																																																
101 to 150	12																																																
151 to 200	14																																																
201 to 300	17																																																
301 to 400	20																																																
401 to 500	22																																																
501 to 1000	5 percent of total																																																
1001 and over	50, plus 3 for each 100 over 1000																																																
提供される客室の総数	通信機能付きのバリアフリー対応客室の必要最小数																																																
2～25	2																																																
26～50	4																																																
51～75	7																																																
76～100	9																																																
101～150	12																																																
151～200	14																																																
201～300	17																																																
301～400	20																																																
401～500	22																																																
501～1000	全体の 5%																																																
1001 以上	50 に加えて、1000 を 100 超えるごとに 3 を追加																																																

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>rooms, and shall provide choices of types of guest rooms, number of beds, and other amenities comparable to the choices provided to other guests. Where the minimum number of guest rooms required to comply with 806 is not sufficient to allow for complete dispersion, guest rooms shall be dispersed in the following priority: guest room type, number of beds, and amenities. At least one guest room required to provide mobility features complying with 806.2 shall also provide communication features complying with 806.3. Not more than 10 percent of guest rooms required to provide mobility features complying with 806.2 shall be used to satisfy the minimum number of guest rooms required to provide communication features complying with 806.3.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Advisory 224.5 Dispersion. Factors to be considered in providing an equivalent range of options may include, but are not limited to, room size, bed size, cost, view, bathroom fixtures such as hot tubs and spas, smoking and nonsmoking, and the number of rooms provided.</p> </div> <p>CHAPTER 3: BUILDING BLOCKS</p> <p>305 Clear Floor or Ground Space</p> <p>305.1 General. Clear floor or ground space shall comply with 305.</p> <p>305.2 Floor or Ground Surfaces. Floor or ground surfaces of a clear floor or ground space shall comply with 302. Changes in level are not permitted.</p> <p style="text-align: center;">EXCEPTION: Slopes not steeper than 1:48 shall be permitted.</p>	<p>と同等の客室タイプ、ベッド数、およびその他のアメニティに関する選択肢を提供しなければならない。806 条に適合するために必要な最小限の客室数が、完全な分散を行うには不十分な場合、客室は、客室タイプ、ベッド数、およびアメニティの優先順位で分散されるものとする。806.2 項に適合したバリアフリー機能を提供することが必要な少なくとも 1 つの客室は、806.3 に適合する通信機能も提供しなければならない。806.2 項に適合したバリアフリー機能を提供することが必要な客室数の 10% を超える数の客室が、806.3 項に適合した通信機能を提供することが必要な客室の最小数を満たすために使用されてはならない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>勧告 224.5 分散 同等の範囲の選択肢を提供する際に考慮されるべき要因としては、部屋の大きさ、ベッドの大きさ、費用、眺望、浴槽やスパなどの浴室器具、喫煙および禁煙、ならびに提供される部屋の数が挙げられるが、これらに限定されない。</p> </div> <p>第 3 章：建物の構成要素</p> <p>305 床または地面の水平スペース</p> <p>305.1 一般 床または地面の水平スペースは、305 条に適合しなければならない。</p> <p>305.2 床または地面の表面 床または地面の水平スペースの表面は、302 条に適合しなければならない。段差を設けてはならない。</p> <p style="text-align: center;">適用除外： 1/48 より急でない傾斜路は、許される。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>305.3 Size. The clear floor or ground space shall be 30 inches (760 mm) minimum by 48 inches (1220 mm) minimum.</p>  <p style="text-align: center;">Figure 305.3 Clear Floor or Ground Space</p> <p>305.4 Knee and Toe Clearance. Unless otherwise specified, clear floor or ground space shall be permitted to include knee and toe clearance complying with 306.</p> <p>305.5 Position. Unless otherwise specified, clear floor or ground space shall be positioned for either forward or parallel approach to an element.</p>	<p>305.3 大きさ 床または地面の水平スペースは、760mm 以上×1220mm 以上とする。</p>  <p style="text-align: center;">図 305.3 床または地面の水平スペース</p> <p>305.4 膝とつま先のスペース 特記がない限り、床または地面の水平スペースには、306 条に適合した膝とつま先のためのスペースを含めることができる。</p> <p>305.5 位置 特記がない限り、床または地面の水平スペースは、対象物に対し正面または側面からのアプローチが可能な位置に配置されなければならない。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
 <p style="text-align: center;">Figure 305.5 Position of Clear Floor or Ground Space</p> <p>305.6 Approach. One full unobstructed side of the clear floor or ground space shall adjoin an accessible route or adjoin another clear floor or ground space.</p> <p>305.7 Maneuvering Clearance. Where a clear floor or ground space is located in an alcove or otherwise confined on all or part of three sides, additional maneuvering clearance shall be provided in accordance with 305.7.1 and 305.7.2.</p> <p>305.7.1 Forward Approach. Alcoves shall be 36 inches (915 mm) wide minimum where the depth exceeds 24 inches (610 mm).</p>	 <p style="text-align: center;">図 305.5 床または地面の水平スペースの位置</p> <p>305.6 アプローチ 床または地面の水平スペースの遮られていない一辺は、バリアフリー対応の経路に隣接するか、別の床または地面の水平スペースに隣接しなければならない</p> <p>305.7 動作域 床または地面の水平スペースが窪んだスペースにある場合、または三方の全部または一部が塞がれている場合は、305.7.1 号および 305.7.2 号に従って追加の動作域を設けなければならない。</p> <p>305.7.1 正面からのアプローチ 窪んだスペースの奥行きが 610mm を超える場合は、その幅は 915mm 以上でなければならない。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
 <p>Figure 305.7.1 Maneuvering Clearance in an Alcove, Forward Approach</p> <p>305.7.2 Parallel Approach. Alcoves shall be 60 inches (1525 mm) wide minimum where the depth exceeds 15 inches (380mm)</p>  <p>Figure 305.7.2 Maneuvering Clearance in an Alcove, Parallel Approach</p>	 <p>図 305.7.1 窪んだスペースでの動作域、正面からのアプローチ</p> <p>305.7.2 側面からのアプローチ 窪んだスペースの奥行きが 380mm を超える場合は、その幅は 1525mm 以上でなければならない。</p>  <p>図 305.7.2 窪んだスペースでの動作域、側面からのアプローチ</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>309 Operable Parts</p> <p>309.1 General. Operable parts shall comply with 309.</p> <p>309.2 Clear Floor Space. A clear floor or ground space complying with 305 shall be provided.</p> <p>309.3 Height. Operable parts shall be placed within one or more of the reach ranges specified in 308.</p> <p>309.4 Operation. Operable parts shall be operable with one hand and shall not require tight grasping, pinching, or twisting of the wrist. The force required to activate operable parts shall be 5 pounds (22.2 N) maximum.</p> <p>EXCEPTION: Gas pump nozzles shall not be required to provide operable parts that have an activating force of 5 pounds (22.2 N) maximum.</p> <p>CHAPTER 4: ACCESSIBLE ROUTES</p> <p>404 Doors, Doorways, and Gates</p> <p>404.1 General. Doors, doorways, and gates that are part of an accessible route shall comply with 404.</p> <p>EXCEPTION: Doors, doorways, and gates designed to be operated only by security personnel shall not be required to comply with 404.2.7, 404.2.8, 404.2.9, 404.3.2 and 404.3.4 through 404.3.7.</p>	<p>309 可動パーツ</p> <p>309.1 一般 可動パーツは、309 条に適合しなければならない。</p> <p>309.2 床の水平スペース 床または地面の水平スペースは、305 条に適合しなければならない。</p> <p>309.3 高さ 可動パーツは、308 条で指定された 1 つ以上の到達範囲内に配置されなければならない。</p> <p>309.4 操作 可動パーツは、片手で操作が可能でなければならない、しっかりと握ったり、つまんだり、手首をひねったりする必要があってはならない。可動パーツを作動させるのに必要な力は、22.2N 以下でなければならない。</p> <p>適用除外: ガソリンポンプのノズルに関しては、22.2N 以下の力を要する可動パーツを提供する必要はない。</p> <p>第 4 章: バリアフリー対応の経路</p> <p>404 扉、扉開口部、およびゲート</p> <p>404.1 一般 バリアフリー対応の経路の一部である扉、扉開口部、およびゲートは、404 条に適合しなければならない。</p> <p>適用除外: 警備担当者のみが操作するように設計された扉、扉開口部、およびゲートは、404.2.7 号、404.2.8 号、404.2.9 号、404.3.2 号および 404.3.4 号から 404.3.7 号までに適合する必要はない。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>Advisory 404.1 General Exception. Security personnel must have sole control of doors that are eligible for the Exception at 404.1. It would not be acceptable for security personnel to operate the doors for people with disabilities while allowing others to have independent access.</p>	<p>勧告 404.1 一般的な適用除外 防犯担当者は、404.1 項の適用除外の対象となる扉を独占的に管理しなければならない。防犯担当者は、障害者以外の人に対しては独自のアクセスを許可する一方で、障害者のためには扉を操作することを行ってはならない。</p>
<p>404.2 Manual Doors, Doorways, and Manual Gates. Manual doors and doorways and manual gates intended for user passage shall comply with 404.2.</p>	<p>404.2 手動扉と扉開口部、および手動ゲート 利用者が通行することを意図した手動扉と扉開口部および手動ゲートは、404.2 項に適合しなければならない。</p>
<p>404.2.1 Revolving Doors, Gates, and Turnstiles. Revolving doors, revolving gates, and turnstiles shall not be part of an accessible route.</p>	<p>404.2.1 回転扉、回転ゲート、および回転式改札口 回転扉、回転ゲート、および回転式改札口は、バリアフリー経路の一部であってはならない。</p>
<p>404.2.2 Double-Leaf Doors and Gates. At least one of the active leaves of doorways with two leaves shall comply with 404.2.3 and 404.2.4.</p>	<p>404.2.2 両開き扉とゲート 2枚の扉を持つ扉開口部の少なくとも1つの常時使われる側の扉は、404.2.3号および404.2.4号に適合するものとする。</p>
<p>404.2.3 Clear Width. Door openings shall provide a clear width of 32 inches (815 mm) minimum. Clear openings of doorways with swinging doors shall be measured between the face of the door and the stop, with the door open 90 degrees. Openings more than 24 inches (610 mm) deep shall provide a clear opening of 36 inches (915 mm) minimum. There shall be no projections into the required clear opening width lower than 34 inches (865 mm) above the finish floor or ground. Projections into the clear opening width between 34 inches (865 mm) and 80 inches (2030 mm) above the finish floor or ground shall not exceed 4</p>	<p>404.2.3 有効幅員 扉の開口部では、815mm以上の有効幅員を確保しなければならない。開き戸が付いた扉開口部の有効開口部は、扉が90度開いている状態で、扉の面から戸当たりの間を測定しなければならない。610mm以上の奥行きを持つ開口部には、915mm以上の有効開口がなくてはならない。床仕上げまたは地面から865mm以下の高さの範囲で、必要とされる有効開口幅員の中に突起するものがあってはならない。床仕上げまたは地面から865mm～2030mmの高さの範囲で有効開口幅員の中に突起するものは、100mmを超えてはならない。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>inches (100 mm).</p> <p>EXCEPTIONS: 1. In alterations, a projection of 5/8 inch (16 mm) maximum into the required clear width shall be permitted for the latch side stop.</p> <p>2. Door closers and door stops shall be permitted to be 78 inches (1980 mm) minimum above the finish floor or ground.</p>	<p>適用除外：1. 改修において、必要とされる有効幅員への16mm以下の突起は、戸先側の戸当たりに限り許される。</p> <p>2. ドアチェックおよびドアストッパーは、床仕上げまたは地面から1980mm以上の高さでは許容される。</p>
<p>(a) hinged door (b) sliding door (c) folding door</p> <p style="text-align: center;">Figure 404.2.3 Clear Width of Doorways</p>	<p>(a) 開き戸 (b) 引き戸 (c) 折れ戸</p> <p style="text-align: center;">図 404.2.3 扉開口部の有効幅員</p>
<p>CHAPTER 7: COMMUNICATION ELEMENTS AND FEATURES</p> <p>701 General</p> <p>701.1 Scope. The provisions of Chapter 7 shall apply where required by Chapter 2 or where referenced by a requirement in this document.</p> <p>702 Fire Alarm Systems</p> <p>702.1 General. Fire alarm systems shall have permanently installed audible and visible alarms complying with NFPA 72 (1999 or 2002 edition) (incorporated by</p>	<p>第7章：通信に関わる要素と機能</p> <p>701 一般</p> <p>701.1 範囲 第7章の規定は、第2章で要求されている場合、またはこの文書の要求事項により参照されている場合に適用される。</p> <p>702 火災警報システム</p> <p>702.1 一般 火災警報システムは、NFPA (全米防火協会) 72 (1999年または2002年版) (参照により追加、第1章の「参照標準」を参照) に</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>reference, see "Referenced Standards" in Chapter 1), except that the maximum allowable sound level of audible notification appliances complying with section 4-3.2.1 of NFPA 72 (1999 edition) shall have a sound level no more than 110 dB at the minimum hearing distance from the audible appliance. In addition, alarms in guest rooms required to provide communication features shall comply with sections 4-3 and 4-4 of NFPA 72 (1999 edition) or sections 7.4 and 7.5 of NFPA 72 (2002 edition).</p> <p>EXCEPTION: Fire alarm systems in medical care facilities shall be permitted to be provided in accordance with industry practice.</p> <p>704 Telephones</p> <p>704.3 Volume Control Telephones. Public telephones required to have volume controls shall be equipped with a receive volume control that provides a gain adjustable up to 20 dB minimum. For incremental volume control, provide at least one intermediate step of 12 dB of gain minimum. An automatic reset shall be provided.</p> <div data-bbox="231 712 788 949" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Advisory 704.3 Volume Control Telephones. Amplifiers on pay phones are located in the base or the handset or are built into the telephone. Most are operated by pressing a button or key. If the microphone in the handset is not being used, a mute button that temporarily turns off the microphone can also reduce the amount of background noise which the person hears in the earpiece. If a volume adjustment is provided that allows the user to set the level anywhere from the base volume to the upper requirement of 20 dB,</p> </div>	<p>従って、音声および目視による認識が可能な警報を恒久的に備えていなければならない。ただし、NFPA 72 (1999 年版) の 4-3.2.1 に適合する、音声による通知装置の最大許容音量は、音声による通知装置から最小の聴覚距離で 110dB 以下の音のレベルを有するものとする。さらに、通信機能を備えていることを要求される客室の警報機は、NFPA 72 (1999 年版) の 4-3 および 4-4、又は NFPA 72 (2002 年版) の 7.4 および 7.5 に適合しなければならない。</p> <p>適用除外: 医療施設の火災警報システムに関しては、業界の慣例に従って提供されることが許可される。</p> <p>704 電話機</p> <p>704.3 音量調節が可能な電話機 音量調節機能を要求される公衆電話機は、最低でも 20dB まで調整可能なボリュームの増加域を提供する受信ボリューム制御機能を備えていなければならない。段階的な音量制御が可能な場合は、12dB 以上の音量の増加が可能な中間ステップを少なくとも 1 つ備えていなければならない。自動リセット機能は、提供されなければならない。</p> <div data-bbox="879 712 1433 949" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>勧告 704.3 音量調節が可能な電話機 公衆電話機のアンプは、電話機の支持部や受話器内に配置、または電話機に内蔵されている。ほとんどは、ボタンまたはキーを押して操作される。受話器のマイクが使用されていない場合は、マイクを一時的にオフにするミュートボタンを使用して、受話器から聞こえてくるバックグラウンドノイズの量を抑えることもできる。利用者が基本音量から要求される上限音量の 20dB の間の任意の位置でレベルを設定することが可能な音量調整機能</p> </div>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>there is no need to specify a lower limit. If a stepped volume control is provided, one of the intermediate levels must provide 12 dB of gain. Consider compatibility issues when matching an amplified handset with a phone or phone system. Amplified handsets that can be switched with pay telephone handsets are available. Portable and in-line amplifiers can be used with some phones but are not practical at most public phones covered by these requirements.</p> <p>CHAPTER 8: SPECIAL ROOMS, SPACES, AND ELEMENTS</p> <p>804 Kitchens and Kitchenettes</p> <p>804.1 General. Kitchens and kitchenettes shall comply with 804.</p> <p>804.2 Clearance. Where a pass through kitchen is provided, clearances shall comply with 804.2.1. Where a U-shaped kitchen is provided, clearances shall comply with 804.2.2.</p> <p>EXCEPTION: Spaces that do not provide a cooktop or conventional range shall not be required to comply with 804.2.</p> <div data-bbox="231 1928 788 2069" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Advisory 804.2 Clearance. Clearances are measured from the furthest projecting face of all opposing base cabinets, counter tops, appliances, or walls, excluding hardware.</p> </div>	<p>が提供されるならば、音量の下限を指定する必要はない。段階的な音量制御機能が提供されている場合、中間レベルの 1 つは、12dB の音量の増加を提供しなければならない。音量増幅可能な受話器を電話機や電話設備に適合させる場合、互換性を考慮すること。公衆電話機の受話器と切り替えができる音量増幅可能な受話器を手に入れることができる。携帯可能および挿入式のアンプは、一部の電話機で使用できるが、上記要件が適用されるほとんどの公衆電話機では実用的ではない。</p> <p>第 8 章：特殊な室、スペース、および要素</p> <p>804 キッチンと簡易キッチン</p> <p>804.1 一般 キッチンおよび簡易キッチンは、804 条に適合しなければならない。</p> <p>804.2 有効幅員 キッチンを通り抜ける通路が設けられている場合、有効幅員は、804.2.1 号に適合しなければならない。コの字型のキッチンの場合、有効幅員は、804.2.2 号に適合しなければならない。</p> <p>適用除外: コンロまたは通常のレンジがない空間は、804.2 項に適合する必要はない。</p> <div data-bbox="879 1928 1433 2069" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>勧告 804.2 有効幅員 有効幅員は、金物を除く全ての対面する下部戸棚、天板、機器、または壁の最も遠くに出出している面から測定される。</p> </div>

ADA 基準 (英語)

804.2.1 Pass Through Kitchen. In pass through kitchens where counters, appliances or cabinets are on two opposing sides, or where counters, appliances or cabinets are opposite a parallel wall, clearance between all opposing base cabinets, counter tops, appliances, or walls within kitchen work areas shall be 40 inches (1015 mm) minimum. Pass through kitchens shall have two entries.

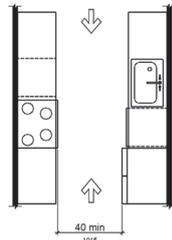


Figure 804.2.1
Pass Through Kitchens

ADA 基準 (日本語訳)

804.2.1 キッチンを通る通路 カウンター、機器、または戸棚が対面しているキッチン、もしくはカウンター、機器、または戸棚が平行な壁の反対側にあるキッチンを通る通路において、キッチンの作業空間内の全ての下部戸棚、天板、機器、または壁の間の有効幅員は、1015mm 以上でなければならない。キッチンを通る通路には、2つの出入口がなくてはならない。

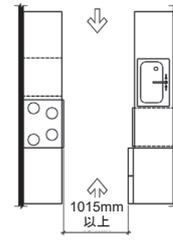


図 804.2.1
キッチンを通る通路

ADA 基準 (英語)

804.2.2 U-Shaped. In U-shaped kitchens enclosed on three contiguous sides, clearance between all opposing base cabinets, counter tops, appliances, or walls within kitchen work areas shall be 60 inches (1525 mm) minimum.

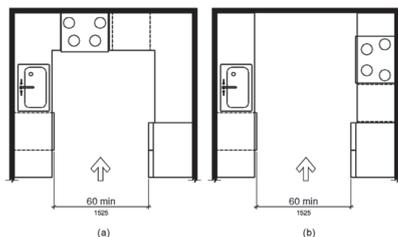


Figure 804.2.2
U-Shaped Kitchens

ADA 基準 (日本語訳)

804.2.2 コの字型のキッチン 3つの連続した側面に囲まれたコの字型のキッチンでは、キッチンの作業空間内の全ての対面する下部戸棚、天板、機器、または壁の間の有効幅員は、1525mm 以上でなければならない。

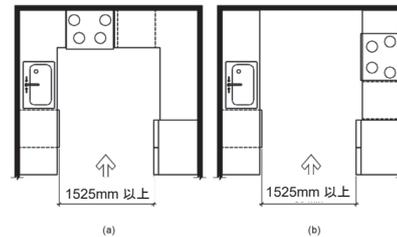


図 804.2.2
コの字型のキッチン

804.3 Kitchen Work Surface. In residential dwelling units required to comply with 809, at least one 30 inches (760 mm) wide minimum section of counter shall provide a kitchen work surface that complies with 804.3.

804.3.1 Clear Floor or Ground Space. A clear floor space complying with 305 positioned for a forward approach shall be provided. The clear floor or ground space shall be centered on the kitchen work surface and shall provide knee and toe clearance complying with 306.

804.3 キッチンの作業台 809 条に適合する必要がある住居では、幅 760mm 以上のカウンターの一部分が、少なくとも 1 箇所、804.3 項に適合するキッチン作業台でなければならない。

804.3.1 床または地面の水平スペース 305 条に適合する正面からのアプローチのための床の水平スペースが提供されなければならない。床または地面の水平スペースは、キッチン作業台の中央に配置し、306 条に適合した膝とつま先のためのスペースを備えていなければならない。

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>EXCEPTION: Cabinetry shall be permitted under the kitchen work surface provided that all of the following conditions are met: (a) the cabinetry can be removed without removal or replacement of the kitchen work surface; (b) the finish floor extends under the cabinetry; and (c) the walls behind and surrounding the cabinetry are finished.</p> <p>804.3.2 Height. The kitchen work surface shall be 34 inches (865 mm) maximum above the finish floor or ground.</p> <p>EXCEPTION: A counter that is adjustable to provide a kitchen work surface at variable heights, 29 inches (735 mm) minimum and 36 inches (915 mm) maximum, shall be permitted.</p> <p>804.3.3 Exposed Surfaces. There shall be no sharp or abrasive surfaces under the work surface counters.</p> <p>804.4 Sinks. Sinks shall comply with 606.</p> <p>804.5 Storage. At least 50 percent of shelf space in storage facilities shall comply with 811.</p> <p>804.6 Appliances. Where provided, kitchen appliances shall comply with 804.6.</p> <p>804.6.1 Clear Floor or Ground Space. A clear floor or ground space complying with 305 shall be provided at each kitchen appliance. Clear floor</p>	<p>適用除外: 次の条件がすべて満たされる場合に限り、戸棚をキッチンの作業台の下に設置してもよい。 (a) キッチン作業台を取り外したり交換したりすることなく戸棚を取り外すことができる。(b) 床仕上げが戸棚の下に伸びている。および、 (c) キャビネットの背面と周囲の壁が仕上げられている。</p> <p>804.3.2 高さ キッチンの作業台は、床仕上げまたは地面から 865mm 以下の高さに提供されなければならない。</p> <p>適用除外: 最低 735mm から最高 915mm までの高さの範囲で、キッチン作業台を提供できる高さ調整が可能なカウンターは使用してもよい。</p> <p>804.3.3 露出面 作業台の下には角張った面や荒い面があってはならない。</p> <p>804.4 シンク 流しは、606 条に適合しなければならない。</p> <p>804.5 収納 収納設備の棚のスペースの少なくとも 50 パーセントは、811 条に適合しなければならない。</p> <p>804.6 機器 キッチン機器が設置されている場合、804.6 項に適合しなければならない。</p> <p>804.6.1 床または地面の水平スペース それぞれのキッチン機器において、305 条に適合する床または地面の水平スペースを設けな</p>

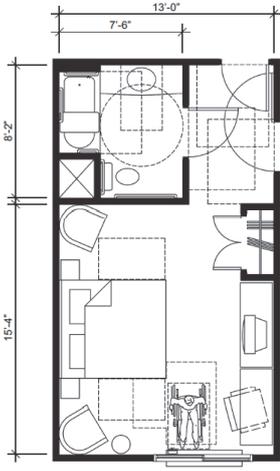
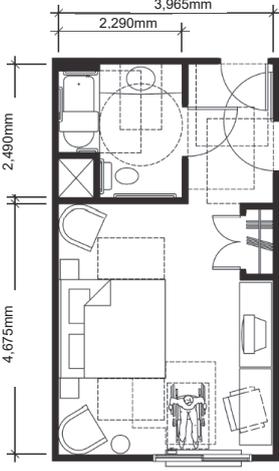
ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>or ground spaces shall be permitted to overlap.</p> <p>804.6.2 Operable Parts. All appliance controls shall comply with 309.</p> <p>EXCEPTIONS: 1. Appliance doors and door latching devices shall not be required to comply with 309.4. 2. Bottom-hinged appliance doors, when in the open position, shall not be required to comply with 309.3.</p> <p>804.6.3 Dishwasher. Clear floor or ground space shall be positioned adjacent to the dishwasher door. The dishwasher door, in the open position, shall not obstruct the clear floor or ground space for the dishwasher or the sink.</p> <p>804.6.4 Range or Cooktop. Where a forward approach is provided, the clear floor or ground space shall provide knee and toe clearance complying with 306. Where knee and toe space is provided, the underside of the range or cooktop shall be insulated or otherwise configured to prevent burns, abrasions, or electrical shock. The location of controls shall not require reaching across burners.</p> <p>804.6.5 Oven. Ovens shall comply with 804.6.5.</p> <p>804.6.5.1 Side-Hinged Door Ovens. Side-hinged door ovens shall have the work surface required by 804.3 positioned adjacent to the latch side of the oven door.</p>	<p>なければならない。床または地面の水平スペースは重なってもよい。</p> <p>804.6.2 可動パーツ 全ての機器の制御装置は、309 条に適合しなければならない。</p> <p>適用除外: 1. 機器の扉およびラッチは、309.4 項に適合する必要はない。 2. 底辺に蝶番が付いた縦開きの機器の扉が開いた状態あるときは、309.3 項に適合する必要はない。</p> <p>804.6.3 食器洗浄機 床または地面の水平スペースは、食器洗浄機の扉に隣接して配置されなければならない。開いた状態にある食器洗浄機の扉は、食器洗浄機や流し台のための床または地面の水平スペースを塞いではならない。</p> <p>804.6.4 レンジまたはコンロ 正面からのアプローチでは、床または地面の水平スペースにおいて、306 条に適合する膝とつま先のためのスペースが提供されなければならない。膝とつま先のためのスペースがある場合は、レンジまたはコンロの底面を絶縁するか、火傷、擦り傷、または感電を防ぐような仕様でなければならない。制御装置は、バーナー越しの位置にあってはならない。</p> <p>804.6.5 オープン オープンは、804.6.5 号に適合しなければならない。</p> <p>804.6.5.1 横開き扉のオープン 横開き扉のオープンは、オープンの扉の取手側に隣接して配置された 804.3 項で規定される作業面を持たなければならない。</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>804.6.5.2 Bottom-Hinged Door Ovens. Bottom-hinged door ovens shall have the work surface required by 804.3 positioned adjacent to one side of the door.</p> <p>804.6.5.3 Controls. Ovens shall have controls on front panels.</p> <p>804.6.6 Refrigerator/Freezer. Combination refrigerators and freezers shall have at least 50 percent of the freezer space 54 inches (1370 mm) maximum above the finish floor or ground. The clear floor or ground space shall be positioned for a parallel approach to the space dedicated to a refrigerator/freezer with the centerline of the clear floor or ground space offset 24 inches (610 mm) maximum from the centerline of the dedicated space.</p> <p>806 Transient Lodging Guest Rooms</p> <p>806.1 General. Transient lodging guest rooms shall comply with 806. Guest rooms required to provide mobility features shall comply with 806.2. Guest rooms required to provide communication features shall comply with 806.3.</p> <p>806.2 Guest Rooms with Mobility Features. Guest rooms required to provide mobility features shall comply with 806.2.</p>	<p>804.6.5.2 底辺に蝶番が付いた縦開き扉のオープン 底辺に蝶番が付いた縦開き扉のオープンは、扉の片側に隣接して配置された 804.3 項に規定される作業面を持たなければならない。</p> <p>804.6.5.3 制御装置 オープンは、前面パネルに制御装置を持たなければならない。</p> <p>804.6.6 冷蔵庫/冷凍庫 冷蔵・冷凍一体型の冷蔵庫は、床仕上げまたは地面から 1370mm 以下の高さに、冷凍庫スペースの少なくとも 50 パーセントが提供されなければならない。床または地面の水平スペースは、床または地面の有水平スペースの中心線が冷蔵庫/冷凍庫の専用スペースの中心線から最大 610mm ずれた位置に、冷蔵庫/冷凍庫の専用スペースに平行にアプローチできるように配置しなければならない。</p> <p>806 一時的な宿泊のための客室</p> <p>806.1 一般 一時的な宿泊のための客室は、806 条に適合しなければならない。バリアフリー機能を備える必要のある客室は、806.2 項に適合しなければならない。通信機能を備える必要のある客室は、806.3 項に適合しなければならない。</p> <p>806.2 バリアフリー機能を備えた客室 バリアフリー機能を備える必要のある客室は、806.2 項に適合しなければならない。</p>

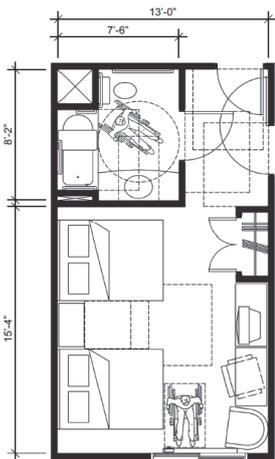
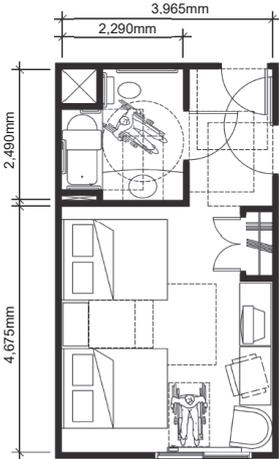
ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>Advisory 806.2 Guest Rooms. The requirements in Section 806.2 do not include requirements that are common to all accessible spaces. For example, closets in guest rooms must comply with the applicable provisions for storage specified in scoping.</p> <p>806.2.1 Living and Dining Areas. Living and dining areas shall be accessible.</p> <p>806.2.2 Exterior Spaces. Exterior spaces, including patios, terraces and balconies, that serve the guest room shall be accessible.</p> <p>806.2.3 Sleeping Areas. At least one sleeping area shall provide a clear floor space complying with 305 on both sides of a bed. The clear floor space shall be positioned for parallel approach to the side of the bed.</p> <p>EXCEPTION: Where a single clear floor space complying with 305 positioned for parallel approach is provided between two beds, a clear floor or ground space shall not be required on both sides of a bed.</p> <p>806.2.4 Toilet and Bathing Facilities. At least one bathroom that is provided as part of a guest room shall comply with 603. No fewer than one water closet, one lavatory, and one bathtub or shower shall comply with applicable requirements of 603 through 610. In addition, required roll-in</p>	<p>勧告 806.2 客室 806.2 項の要件には、全てのバリアフリー対応のスペースに共通の要件が含まれていない。例えば、客室のクローゼットは、適用範囲の中で指定された収納設備に適用される規定に適合する必要がある。</p> <p>806.2.1 リビングエリアおよびダイニングエリア リビングエリアおよびダイニングエリアは、バリアフリー対応でなければならない。</p> <p>806.2.2 屋外スペース 客室に付随するパティオ、テラス、およびバルコニーなどの屋外スペースは、バリアフリー対応でなければならない。</p> <p>806.2.3 寝室 少なくとも 1 つの寝室エリアでは、ベッドの両側に 305 条に適合する床の水平スペースが提供されなければならない。床の水平スペースは、ベッドの側面に対して平行のアプローチが可能になるように配置されなければならない。</p> <p>適用除外: 2 つのベッドの間に、側面からのアプローチのために配置された 305 条に適合する単一の床の水平スペースが設けられている場合、ベッドの両側に床または地面の水平スペースは必要ではない。</p> <p>806.2.4 トイレおよび入浴施設 客室の一部として提供される少なくとも 1 つの浴室は、603 条に適合しなければならない。少なくとも 1 つの便器、1 つの洗面器、1 つの浴槽もしくはシャワー室は、603 条から 610 条の適用要件に適合しなければならない。さらに、</p>

ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>shower compartments shall comply with 608.2.2 or 608.2.3. Toilet and bathing fixtures required to comply with 603 through 610 shall be permitted to be located in more than one toilet or bathing area, provided that travel between fixtures does not require travel between other parts of the guest room.</p> <p>806.2.4.1 Vanity Counter Top Space. If vanity counter top space is provided in non-accessible guest toilet or bathing rooms, comparable vanity counter top space, in terms of size and proximity to the lavatory, shall also be provided in accessible guest toilet or bathing rooms.</p> <p>Advisory 806.2.4.1 Vanity Counter Top Space. This provision is intended to ensure that accessible guest rooms are provided with comparable vanity counter top space.</p> <p>806.2.5 Kitchens and Kitchenettes. Kitchens and kitchenettes shall comply with 804.</p> <p>806.2.6 Turning Space. Turning space complying with 304 shall be provided within the guest room.</p> <p>806.3 Guest Rooms with Communication Features. Guest rooms required to provide communication features shall comply with 806.3.</p> <p>Advisory 806.3 Guest Rooms with Communication Features. In guest rooms required to have accessible communication features, consider ensuring compatibility with adaptive equipment used by people with hearing impairments. To ensure communication within</p>	<p>バリアフリー対応シャワー室が必要な場合は、608.2.2 号または 608.2.3 号に適合させなければならない。トイレおよび入浴器具の間の移動が客室の他の部分を通る移動を必要としない限り、603 条から 610 条に適合することが要求されるトイレ器具および入浴器具は、複数のトイレまたは入浴エリアに配置することが許される。</p> <p>806.2.4.1 化粧台スペース 化粧台スペースがバリアフリー対応でない客室トイレまたは浴室にある場合、大きさおよび洗面器との近接性において同等の化粧台スペースを、バリアフリー対応のトイレまたは浴室に設けなければならない。</p> <p>勧告 806.2.4.1 化粧台スペース この規定は、バリアフリー対応の客室に同等の化粧台スペースが確実に提供されることを目的としている。</p> <p>806.2.5 キッチンと簡易キッチン キッチンおよび簡易キッチンは、804 条に適合しなければならない。</p> <p>806.2.6 回転スペース 客室内には、304 条に適合した回転スペースが提供されなければならない。</p> <p>806.3 通信機能を備えた客室 通信機能を提供するために必要な客室は 806.3 項に適合しなければならない。</p> <p>勧告 806.3 通信機能を備えた客室 バリアフリー対応の通信機能を必要とする客室では、聴覚障害者が使用する適応装置との互換性を確保することを検討すること。施設内および商業回線の通信を確保するために、デジタルとアナログの両</p>

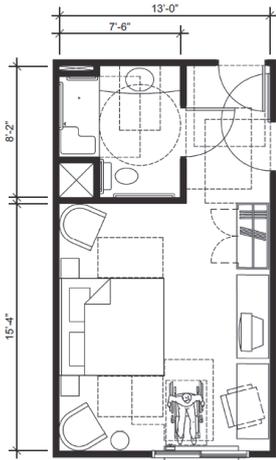
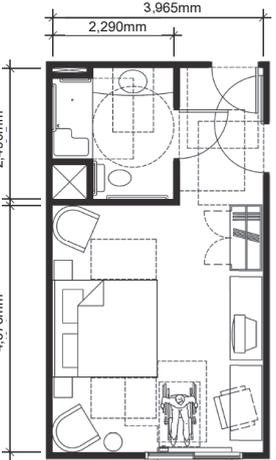
ADA 基準 (英語)	ADA 基準 (日本語訳)
<p>the facility, as well as on commercial lines, provide telephone interface jacks that are compatible with both digital and analog signal use. If an audio headphone jack is provided on a speaker phone, a cutoff switch can be included in the jack so that insertion of the jack cuts off the speaker. If a telephone-like handset is used, the external speakers can be turned off when the handset is removed from the cradle. For headset or external amplification system compatibility, a standard subminiature jack installed in the telephone will provide the most flexibility.</p> <p>806.3.1 Alarms. Where emergency warning systems are provided, alarms complying with 702 shall be provided.</p> <p>806.3.2 Notification Devices. Visible notification devices shall be provided to alert room occupants of incoming telephone calls and a door knock or bell. Notification devices shall not be connected to visible alarm signal appliances. Telephones shall have volume controls compatible with the telephone system and shall comply with 704.3. Telephones shall be served by an electrical outlet complying with 309 located within 48 inches (1220 mm) of the telephone to facilitate the use of a TTY.</p>	<p>方の信号の使用に対応した電話用通信コンセントを提供すること。ヘッドフォン用のジャックがスピーカーフォンに設けられている場合、ジャックの挿入がスピーカーを遮断するように遮断スイッチをジャックに含めることができる。電話のような受話器を使用する場合は、受話器が受け台から取り外された時に、外付けスピーカーをオフにすることができる。ヘッドセットまたは外部増幅システム用の互換性という点では、電話機に付いている標準小型ジャックが、最も柔軟な対応を可能にする。</p> <p>806.3.1 警報 緊急警報設備が設置されている場合は、702 条に適合した警報を提供しなければならない。</p> <p>806.3.2 通知装置 かかってくる電話および扉のノックまたはドアベルに関して部屋の利用者に警告するために、視覚的に確認する通知装置が提供されなければならない。通知装置は、視覚的に確認する警報信号器具に接続してはならない。電話機は、電話システムと互換性のある音量制御装置を備え、704.3 項に適合しなければならない。テレタイプライタの使用を容易にするために、電話機は、電話機から 1220mm 以内に設置された 309 条に適合した電源コンセントを利用しなければならない。</p>

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Transient Lodging Guest Room Floor Plans and Related Text</p> <p>The Department has included the following floor plans showing application of the requirements of the 2010 Standards without significant loss of guest room living space in transient lodging compared to the 1991 Standards.</p> <p>Plan 1A: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a standard bathtub with a seat, comparable vanity, clothes closet with swinging doors, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p> <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Bathtub with a lavatory at the control end (section 607.2); • Removable bathtub seat (section 607.3); 	<p>一時的な宿泊のための施設の客室の平面図と関連注釈</p> <p>司法省は、以下の一時的な宿泊のための施設の客室の平面図を、1991年基準と比較して客室のリビングスペースを大きく損なうことのない2010年基準の適用例として含めた。</p> <p>平面図 1A：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きの標準的浴槽、同等の化粧台、開き戸付きクローゼット、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p> <p>浴室には以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 制御装置側に洗面器がある浴槽 (607.2 項)。 • 取り外し可能な入浴用イス (607.3 項)。 

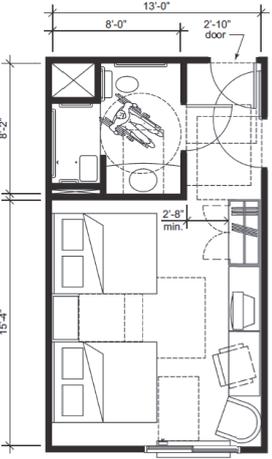
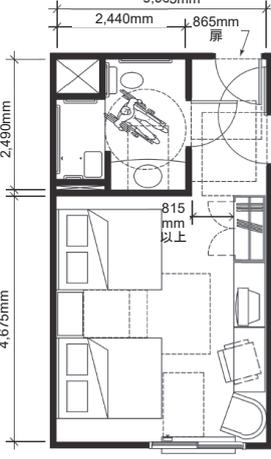
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Clearance in front of the bathtub extends its full length and is 30 inches wide min. (section 607.2); • Recessed bathtub location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 浴槽の前の水平スペースは、浴槽の全長に渡り、幅は 765mm 以上 (607.2 項)。 • 浴槽をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッドの両側に床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 1B: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a standard bathtub with a seat, comparable vanity, clothes closet with swinging doors, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p> <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Bathtub with a lavatory at the control end (section 607.2); • Removable bathtub seat (section 607.3); • Clearance in front of the bathtub extends its full length and is 30 inches wide min. (section 607.2); • Recessed bathtub location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 1B：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きの標準的浴槽、同等の化粧台、開き戸付きクローゼット、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2台のベッドが含まれる。</p> <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 制御装置側に洗面器がある浴槽 (607.2 項)。 • 取り外し可能な入浴用イス (607.3 項)。 • 浴槽の前の水平スペースは、浴槽の全長に渡り、幅は 765mm 以上 (607.2 項)。 • 浴槽をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 

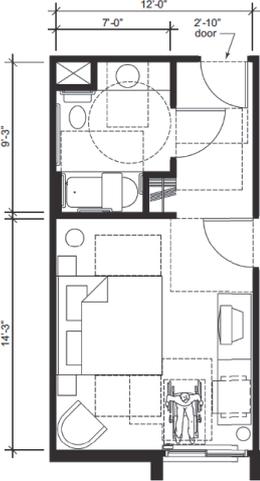
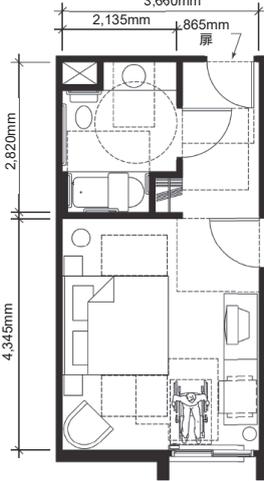
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3); <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

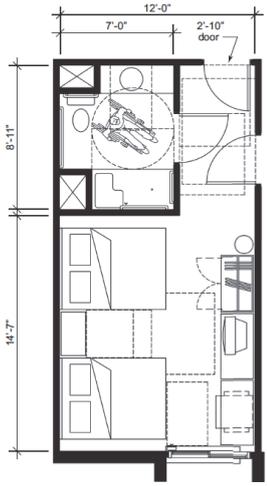
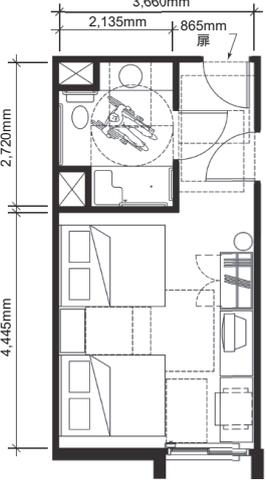
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 2A: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a standard roll-in shower with a seat, comparable vanity, wardrobe, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Standard roll-in type shower with folding seat (section 608.2.2); • Recessed roll-in shower location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Clear floor space adjacent to shower min. 30 inches wide by 60 inches long (section 608.2.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); 	<p>平面図 2A：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きの標準的バリアフリー対応のシャワー室、同等の化粧台、洋服ダンス、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 折りたたみ式イスを備えた標準的バリアフリー対応のシャワー室 (608.2.2 項)。 • バリアフリー対応のシャワー室をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • シャワー室に隣接する床の水平スペースの幅は 765mm 以上で、長さは 1,525mm 以上 (608.2.2 項)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッドの両側に床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調の制御装置 (309 条)。

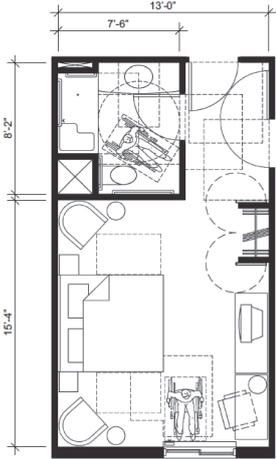
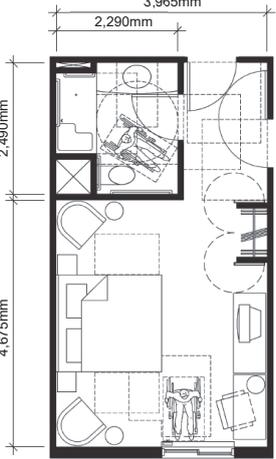
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 2B: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include an alternate roll-in shower with a seat, comparable vanity, wardrobe, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Alternate roll-in type shower with folding seat is 36 inches deep and 60 inches wide (section 608.2.3); • Alternate roll-in shower has a 36-inch wide entry at one end of the long side of the compartment (section 608.2.3); • Recessed alternate roll-in shower location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 2B：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010 年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きのバリアフリー対応シャワー室の代替案、同等の化粧台、洋服ダンス、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2 台のベッドが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 折りたたみ式イスを備えたバリアフリー対応シャワー室 (代替案)。奥行きは 915mm で、幅は 1,525mm。(608.2.3 項)。 • バリアフリー対応シャワー室 (代替案) では、シャワー室の長辺の一方の端に幅 915mm の入口がある (608.2.3 号)。 • バリアフリー対応シャワー室 (代替案) をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

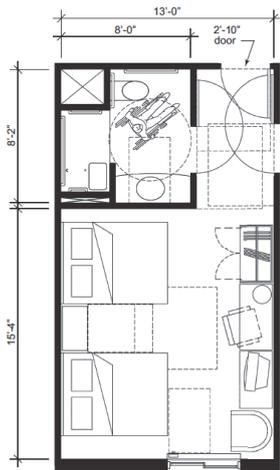
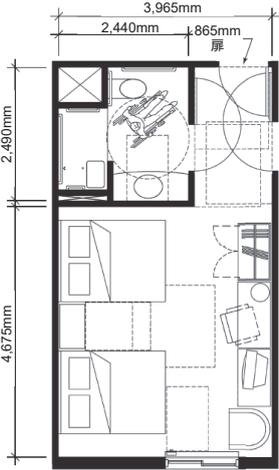
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 3A: 12-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 12-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a bathtub with a seat, comparable vanity, open clothes closet, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p> <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Bathtub (section 607.2); • Removable bathtub seat (section 607.3); • Clearance in front of the bathtub extends its full length and is 30 inches wide min. (section 607.2); • Recessed lavatory with vanity countertop permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 3A：幅 3,660mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010 年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,660mm の客室を示している。入浴用イス付きの浴槽、同等の化粧台、オープンクローゼット、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p> <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 浴槽 (607.2 項)。 • 取り外し可能な入浴用イス (607.3 項)。 • 浴槽の前の水平スペースは、浴槽の全長に渡り、幅は 765mm 以上 (607.2 項)。 • 洗面器付き化粧台をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 
<p>ADA 基準ガイドライン (英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<p>ADA 基準ガイドライン (日本語訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッドの両側に床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 3B: 12-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 12-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a standard roll-in shower with a seat, comparable vanity, wardrobe, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Standard roll-in type shower with folding seat (section 608.2.2); • Recessed lavatory with vanity counter water closet (section 604.5.2); • Clear floor space adjacent to shower min. 30 inches wide by 60 inches long (section 608.2.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); 	<p>平面図 3B：幅 3,660mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,660mm の客室を示している。入浴用イス付き標準的バリアフリー対応のシャワー室、同等の化粧台、洋服ダンス、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2台のベッドが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 折りたたみ式イスを備えた標準的バリアフリー対応のシャワー室 (608.2.2 項)。 • 洗面器付き化粧台をセットバックさがより短くなる (604.5.2 号)。 • シャワー室に隣接する床の水平スペースの幅は 765mm 以上で、長さは 1,525mm 以上 (608.2.2 項)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。

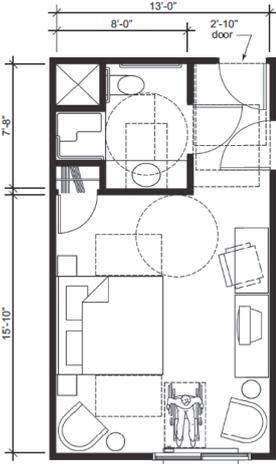
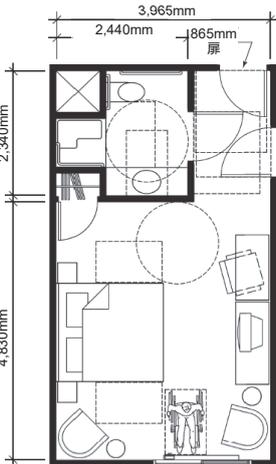
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 4A: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a standard roll-in shower with a seat, comparable vanity, clothes closet with swinging doors, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p> <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Standard roll-in type shower with folding seat (section 608.2.2); • Clear floor space adjacent to shower min. 30 inches wide by 60 inches long (section 608.2.2); • Recessed roll-in shower location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 4A：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きの標準的バリアフリー対応のシャワー室、同等の化粧台、開き戸付きクローゼット、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p> <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 折りたたみ式イスを備えた標準的バリアフリー対応のシャワー室 (608.2.2 項)。 • シャワー室に隣接する水平スペースの幅は 765mm 以上で、長さは 1,525mm 以上 (608.2.2 項)。 • バリアフリー対応のシャワー室をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。 

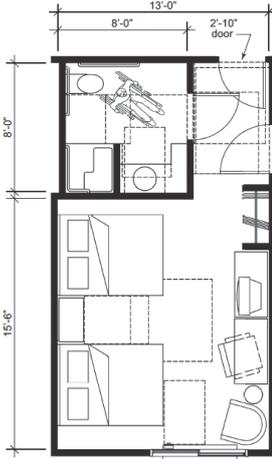
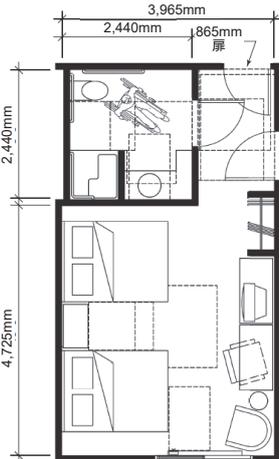
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). • 30-inch wide by 48-inch long minimum clear floor space provided beyond the arc of the swing of the entry door (section 603.2.3 exception 2). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 • 幅 765mm、長さ 1,220mm の最小床水平スペースが、出入口の扉の半径を超えた位置に確保されている (603.2.3 号 適用除外 2)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッドの両側に床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 4B: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include an alternate roll-in shower with a seat, comparable vanity, wardrobe, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Alternate roll-in type shower with folding seat is 36 inches deep and 60 inches wide (section 608.2.3); • Alternate roll-in shower has a 36-inch wide entry at one end of the long end of the compartment (section 608.2.3); • Recessed alternate roll-in shower location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 4B：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。入浴用イス付きのバリアフリー対応シャワー室の代替案、同等の化粧台、洋服ダンス、および隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2台のベッドが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 折りたたみ式イスを備えたバリアフリー対応シャワー室 (代替案)。奥行きは 915mm で、幅は 1,525mm。(608.2.3 項)。 • バリアフリー対応シャワー室 (代替案) では、シャワー室の長辺の一方の端に幅 915mm の入口がある (608.2.3 号)。 • バリアフリー対応シャワー室 (代替案) をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。

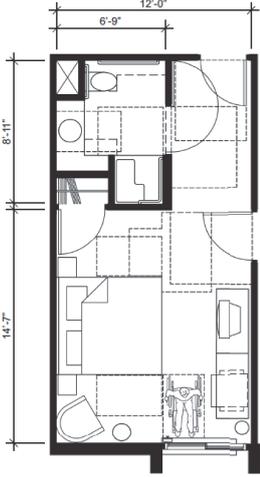
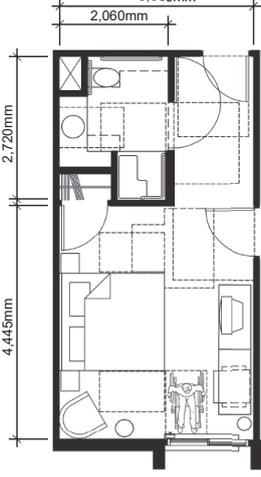
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Turning space includes knee and toe clearance at lavatory (section 304.3); • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 309); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 回転スペースには、洗面台下の膝とつま先のスペースが含まれる (304.3 項)。 • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (309 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 5A: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a transfer shower, comparable vanity, clothes closet with swinging door, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Transfer shower (section 603.2); • Shower seat (section 610.3); • Clearance in front of the shower extends beyond the seat and is 36 inches wide min. (section 607.2); • Recessed transfer shower location permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 5A：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。移乗式シャワー室、同等の化粧台、開き戸付きクローゼット、隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 移乗式シャワー室 (603.2 項)。 • シャワー用イス (610.3 項)。 • シャワー室の前の水平スペースは、幅 915mm 以上で、シャワー用イスの背面を超える床の範囲を含む。(607.2 項)。 • 移乗式シャワー室をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。

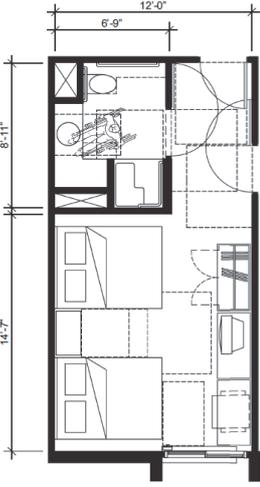
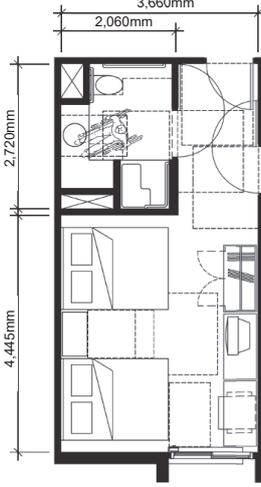
ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Circular turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 229); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 円形の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッドの両側に床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (229 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 5B: 13-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 13-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards Features include a transfer shower, comparable vanity, open clothes closet, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Transfer shower (section 603.2); • Shower seat (section 610.3); • Clearance in front of the shower extends beyond the seat and is 36 inches wide min. (section 607.2); • Lavatory with vanity counter top recessed to permit shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • T-shaped turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 5B：幅 3,965mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,965mm の客室を示している。移乗式シャワー室、同等の化粧台、オープンクローゼット、隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2台のベッドが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 移乗式シャワー室 (603.2 項)。 • シャワー用イス (610.3 項)。 • シャワー室の前の水平スペースは、幅 915mm 以上で、シャワー用イスの背面を超える床の範囲を含む。(607.2 項)。 • 洗面器付き化粧台をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった T 字型の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16-18 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 229); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm~460mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (229 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 6A: 12-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 12-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a transfer shower, water closet length (rim to rear wall) 24 inches maximum, comparable vanity, clothes closet with swinging door, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include a king bed and additional seating.</p> <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Transfer shower (section 603.2); • Shower seat (section 610.3); • Clearance in front of the shower extends beyond the seat and is 36 inches wide min. (section 607.2); • Recessed lavatory with vanity counter top permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • T-shaped turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 6A：幅 3,660mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,660mm の客室を示している。移乗式シャワー室、長さ 610mm 以下（リム部から背面の壁）の便器、同等の化粧台、開き戸付きクローゼット、隣接する客室への扉などが備わっている。家具にはキングサイズベッドと追加のイスが含まれる。</p> <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース（806 条）。 • 移乗式シャワー室（603.2 項）。 • シャワー用イス（610.3 項）。 • シャワー室の前の水平スペースは、幅 915mm 以上で、シャワー用イスの背面を超える床の範囲を含む。（607.2 項）。 • 洗面器付き化粧台をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる（604.5.2 号）。 • 室内に収まった T 字型の回転スペース（603.2.1 号）。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている（603.2.2 号）。 

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • T-shaped turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space on both sides of the bed (section 806.2.3); • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 229); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm（604.3 項）。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm の位置にある（604.2 項）。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない（604.3 項）。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T 字型の回転スペース（304.3.2 号）。 • バリアフリー対応の経路（402 条）。 • ベッドの両側に床の水平スペース（806.2.3 号）。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域（404.2 項）。 • バリアフリー対応の可動窓（229 条）。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置（309 条）。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<p>Plan 6B: 12-Foot Wide Accessible Guest Room</p> <p>This drawing shows an accessible 12-foot wide guest room with features that comply with the 2010 Standards. Features include a transfer shower, water closet length (rim to rear wall) 24 inches maximum, comparable vanity, wardrobe, and door connecting to adjacent guest room. Furnishings include two beds.</p>  <p>The following accessible features are provided in the bathroom:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparable vanity counter top space (section 806); • Transfer shower (section 603.2); • Shower seat (section 610.3); • Clearance in front of the shower extends beyond the seat and is 36 inches wide min. (section 607.2); • Recessed lavatory with vanity counter top permits shorter rear grab bar at water closet (section 604.5.2); • Circular turning space in room (section 603.2.1); • Required clear floor spaces at fixtures and turning space overlap (section 603.2.2); 	<p>平面図 6B：幅 3,660mm のバリアフリー対応の客室</p> <p>この図は、2010年基準に適合した機能を備えたバリアフリー対応の幅 3,660mm の客室を示している。移乗式シャワー室、長さ 610mm 以下（リム部から背面の壁）の便器、同等の化粧台、洋服ダンス、隣接する客室への扉などが備わっている。家具には、2 台のベッドが含まれる。</p>  <p>浴室には、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同等の化粧台スペース (806 条)。 • 移乗式シャワー室 (603.2 項)。 • シャワー用イス (610.3 項)。 • シャワー室の前の水平スペースは、幅 915mm 以上で、シャワー用イスの背面を超える床の範囲を含む。(607.2 項)。 • 洗面器付き化粧台をセットバックさせることで、便器背面の手すりがより短くなる (604.5.2 号)。 • 室内に収まった円形の回転スペース (603.2.1 号)。 • 衛生器具に必要な床の水平スペースと回転スペースが重なっている (603.2.2 号)。

ADA 基準ガイドライン (英語)	ADA 基準ガイドライン (日本語訳)
<ul style="list-style-type: none"> • Water closet clearance is 60 inches at back wall and 56 inches deep (section 604.3); • Centerline of the water closet at 16 inches from side wall (section 604.2); and • No other fixtures or obstructions located within required water closet clearance (section 604.3). <p>The following accessible features are provided in the living area:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Circular turning space (section 304.3.2); • Accessible route (section 402); • Clear floor space between beds (section 806.2.3) • Maneuvering clearances at all doors (section 404.2); • Accessible operable window (section 229); and • Accessible controls for the heat and air conditioning (section 309). 	<ul style="list-style-type: none"> • 便器の水平スペースは、背面の壁の位置で 1,525mm、奥行きは 1,425mm (604.3 項)。 • 便器の中心線は、横の壁から 410mm の位置にある (604.2 項)。および、 • その他の器具や障害物が、便器の必要水平スペースに入っていない (604.3 項)。 <p>リビングエリアには、以下のバリアフリー機能が備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 円形の回転スペース (304.3.2 号)。 • バリアフリー対応の経路 (402 条)。 • ベッド間の床の水平スペース (806.2.3 号)。 • 全ての扉におけるバリアフリー対応の動作域 (404.2 項)。 • バリアフリー対応の可動窓 (229 条)。および、 • バリアフリー対応の暖房および空調用の制御装置 (309 条)。

巻末資料3 ホテル又は旅館における高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準の改正に関する検討会について

(1) 委員会名簿

【学識経験者】

高橋 儀平	東洋大学ライフデザイン学部	教授 【座長】
佐藤 克志	日本女子大学家政学部住居学科	教授
松田 雄二	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	准教授
布田 健	国土技術政策総合研究所 住宅研究部 住宅生産研究室	室長

【障害者団体等】

今西 正義	特定非営利活動法人 D P I 日本会議	バリアフリー担当顧問
岩崎 満男	一般社団法人 日本パラリンピアンズ協会	理事
大濱 眞	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	代表理事
小幡 恭弘	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会	事務局長
齊藤 秀樹	公益財団法人 全国老人クラブ連合会	常務理事
田中 正博	全国手をつなぐ育成会連合会	総括
中原 義隆	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	理事
橋井 正喜	社会福祉法人 日本盲人会連合	常務理事
三澤 一登	一般社団法人 日本発達障害ネットワーク	副理事長
吉野 幸代	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	理事(福祉・労働委員会副委員長)

【施設管理者団体】

岩佐 英美子	一般社団法人 日本ホテル協会	事務局長
神田 裕幸 (第1回)	一般社団法人 日本旅館協会	事務局長
大塚 有紀 (第2・3回)	〃	〃
粉川 季雄	一般社団法人 全日本シティホテル連盟	専務理事
中村 実彦	全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会	理事・シルバースタ 一部会長

【設計関係団体等】

桐 賢史	公益社団法人 日本建築家協会	会員
桜本 啓三	一般社団法人 日本建設業連合会 設計企画部会	会員
田中 良明	一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会	標準化推進部長
古郡 宏光	一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会	会員
本多 健	公益社団法人 日本建築士会連合会	福祉まちづくり部会 委員
山田 誠夫	公益社団法人 国際観光施設協会	技術委員会委員

【審査側団体】

鈴木 康弘	東京都 都市整備局 市街地建築部 建築企画課	課長代理
松永 克也	横浜市 建築局	課長補佐（建築指導部市 街地建築課建築許認可担 当係長）
若狭 博司	大阪府 住宅まちづくり部 建築指導室 建築企画課	課長補佐

【オブザーバー】

杉内 香織（第1・2回）	内閣官房 東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部 事務局	参事官補佐
川上 悟史（第3回）	〃	〃
大塚 憲孝	厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生課	課長補佐
松田 剛	経済産業省 製造産業局 生活製品課 住宅産業室	課長補佐
森岡 信人	国土交通省 総合政策局 安心生活政策課	課長補佐
坂野 修一	国土交通省 観光庁 観光産業課	課長補佐
片山 耕治	国土技術政策総合研究所住宅研究部 住宅ストック高度化研究室	室長
小野 久美子	国立研究開発法人建築研究所 建築生産研究グループ	主任研究員

【事務局】

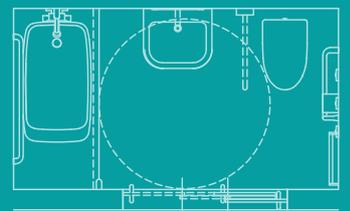
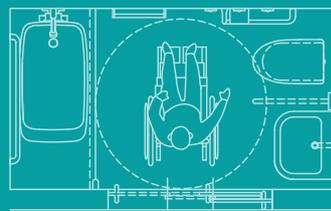
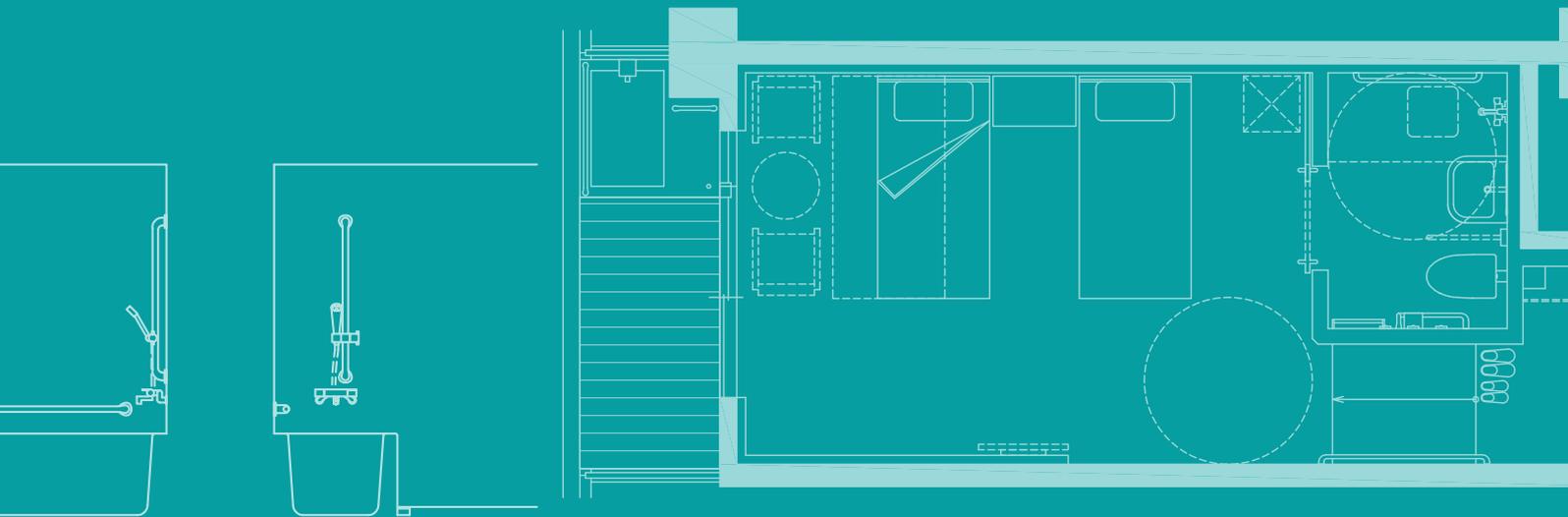
淡野 博久	国土交通省 住宅局 建築指導課	課長
高木 直人	国土交通省 住宅局 建築指導課	企画専門官
飯田 和哉	国土交通省 住宅局 建築指導課	課長補佐
加賀田 茂史	国土交通省 住宅局 建築指導課	係員
株式会社 市浦ハウジング&プランニング		
一般財団法人 国土技術研究センター		

（2）検討会等の開催経緯

- 第1回：2018年9月21日（金） 都市センターホテル 5階オリオンにて
 第2回：2018年12月3日（月） 日本青年館ホテル 8階 Conference Room YELLOWにて
 第3回：2019年1月21日（月） 中央合同庁舎3号館（国土交通省）10階 共用会議室Aにて



http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_tk_000100.html



Hotels, Inns

